

富山縣立藥學專門學校一覽

明治四十四年十一月

267

604



特30  
942

富山縣立藥學專門學校一覽目次

沿革略

同文

寄贈本

第一編 法令

第一 專門學校令

第二 公立私立專門學校規程

第三 專門學校入學者檢定規程

第四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ無試験檢定ヲ受クルコト  
ヲ得ル者ヲ指定

第五 學生生徒身躰檢查規程

第六 富山縣公立學校職員職務規程

第七 富山縣立藥學專門學校規程

第二編 細則

富山縣立藥學專門學校細則

職員生徒及卒業生

敷地及建物

第四編

明治  
昭和 2. 20  
寄贈



沿革略

本校、明治四十一年、通常縣會ノ決議ニ基ヅキ、四十二年八月縣令第二十五號ニ依リ、四十二年四月一日ヲ以テ開設セラレタルモノナリ、今遡リテ本校ノ沿革ヲ記センニ、明治二十六年七月、當市藥業家中田清兵衛、村澤金廣、松井伊平、阿部初太郎、齋田林藏等ノ諸氏、藥學獎勵ノ必要ヲ感シ、相協リテ市内梅澤町ニ一ノ私立藥學校ヲ設立シ、校舍ヲ新築シ、同年八月認可ヲ得テ翌年二月授業ヲ開始シタリ、之レ共、立富山藥學校ニシテ、其經費ハ市ノ補助ニ係ル金參百圓ノ他、渾テ有志者ノ寄附金ヲ以テ支辨シタルモノナリ、而シテ本校ハ本科及速成科ヨリ成リ、甲ハ藥劑師養成ノ目的ヲ以テ修業年限ヲ二ケ年トナシ、高等小學卒業者若ハ中學二年終了者ヲ入學セシメ、乙ハ藥業家ノ子弟及賣藥行商人ニ藥學ノ大意ヲ授クルヲ以テ目的トナシ、修業年限ヲ一ケ年ト定メ、年齡十五年以上ノ者ヲ募集シタリ、校長ハ村澤金廣ニシテ、講師ハ櫻井勘六外五名ナリキ、三十年十一月一日共立富山藥學校ノ經營ヲ富山市ニ移シ、市立富山藥學校ト改稱ス、是ヨリ先キ校長村澤金廣依願退職シ、講師櫻井勘六校長兼教諭ニ任セラル、三十一年十二月九日校



長櫻井勘六依願退職シ全二十七日講師日野五七郎校長兼教諭ニ任セラル○三十二年八月十二日富山市大火ノ際校舍類焼シ備品及書類等殆ト皆烏有ニ皈ス、依テ一時梅澤町圓隆寺ノ堂宇ヲ借リテ授業ヲ繼續セリ○三十三年五月二日校則ヲ修正シ富山藥業學校ト改稱シ組織ヲ更メテ修業年限ヲ本科三年、別科二年トナシ本科ハ賣藥家ノ徒弟ニ藥學ノ大意ヲ授ケ尋常小學卒業以上ノ者ヲ生徒トナシ、別科ハ藥劑師養成ヲ以テ目的トシ、本科卒業者若ハ高等小學卒業者ヲ入學セシメタリ○全年五月校長兼教諭日野五七郎大阪エ轉任シ堀大次郎校長兼教諭ニ任セラル○三十四年六月一日市立富山藥業學校ト改稱シ七月十日校舍ヲ市内星井町高等小學校ノ一部ニ移シ、三十六年七月二十日市内山王町三十三番地ニ移轉ス○三十七年三月三十一日校長兼教諭堀大次郎休職ヲ命セラレ、同日市立富山商業學校校長兼教諭長野惠太本校校長兼任ヲ命セララル○三十八年三月三十一日校長長野惠太依願兼職ヲ免セラレ、四月一日市立五番町尋常小學校訓導兼校長稻垣茂本校ノ教諭兼校長心得ヲ命セララル○全二十九日稻垣茂教諭兼校長心得ヲ免セラレ、全日堤從清校長兼教諭ニ任セラル○三十九年四月一日卒業者ノ爲本校ニ研究科ヲ設置ス○四十年三月三十一日一旦廢校、全四月一日富

山縣告示第四號ヲ以テ富山縣立藥業學校設置ノ件ヲ布告セラレ、市内山王町三十三番地ニ假校舍ヲ置カル、全日富山縣令第二十八號ヲ以テ校則ヲ定メラル、即本科ノ修業年限ハ三ヶ年ニシテ藥劑事業ニ從事スル者ヲ養成スルノ目的ヲ以テ豫科卒業者若ハ之ト全等以上ノ學力アル者ヲ入學セシメ、豫科ハ二ヶ年ニシテ高等小學校第二學年修了者ヲシテ藥學ノ大意ヲ修得セシメ、若ハ本科ニ入ルノ素養ヲ得セシム○全四月一日本縣事務官山村辨之助校長事務取扱ヲ命セラレ、二十五日開校式ヲ舉ク○全十月二十六日山村辨之助校長事務取扱ヲ免セラレ、全日從五位勳四等中西司馬校長兼教諭ニ任セラル○四十一年十一月一日小松原文部大臣眞野實業學務局長、赤司秘書官ヲ隨ヘテ本校ヲ巡視セララル○四十二年九月三十日皇太子殿下縣下行啓ニ付御代理トシテ東宮侍從內田三吉殿來校シ、親シク校內各部ヲ巡覽セララル、生徒ノ學業成績品ヲ師範學校內ノ陳列場ニ出陳シテ臺覽ニ供シ奉ル○四十三年三月二十日第一回卒業生十九名ノ爲メニ卒業式ヲ舉ク○四十二年七月十七日文部省告示第二百十三號ヲ以テ富山市ニ縣立藥學專門學校ヲ、專門學校令ニ據リテ設置シ、四十三年四月ヨリ開校ノ件認可アリ○八月六日縣令第三十五號ヲ以テ富山縣立藥學專門學校ヲ、四十三年



四月ヨリ開設シ、縣立藥業學校ハ四十三年三月三十一日限り之ヲ廢止スル旨ヲ達セラル、且之ト同時ニ藥學專門學校規程ヲ定メ又縣立藥業學校在學生徒ハ藥學專門學校別科ノ相當學年級ニ編入スルコトヲ得セシメラル○四十三年三月二日文部省告示第五十四號ヲ以テ徵兵令第十三條ノ認定ヲ與ヘラル(但シ認定ノ効力ハ別科生ニ及ハズ)○四十三年四月一日陸軍二等藥劑正從五位勳四等中西司馬ヲ校長ニ任セラル、五日本科生三十一名、別科生七十五名ニ入學ヲ許可シ十一月授業開始式ヲ行フ、知事代理永井事務官臨場ス○六月二十八日校長中西司馬脚氣病ニテ死去ス○七月六日新任濱田知事校内ヲ巡視セラル○八月三十一日陸軍一等藥劑正從四位勳三等功四級藥學博士平山增之助校長兼教諭ニ任セラル○十一月二十二日豫テ市内總曲輪ニ建築中ナリシ校舍竣成セシヲ以テ教育課員立會ノ上其受授ヲ了リ、二十四日移轉ス、本校舎ハ元赤十字社支部病院跡ニ新築セルモノニシテ、四十三年二月起工シ、九月竣工セリ、敷地總坪數二千八百九十二坪二合六勺、建物坪數五百五十八坪○九勺ニシテ、工事費金參萬七千參百參拾七圓六拾七錢五厘ヲ費シ、本年度更ニ蒸餾室及貯水塔等十七坪六合七勺ヲ増築セリ○四十三年十二月四日開校式ヲ舉行ス、平山校長勅語ヲ捧讀シ、濱田

知事ノ告辭、小松原文部大臣ノ祝詞(代讀)長井藥學博士ノ祝詞演說、其他來賓ノ祝詞、各地ヨリノ祝電、校長及生徒總代ノ答辭等アリ、來會者二百五十名○四十四年二月十日、兩陛下ノ御眞影ヲ下賜セララル○三月二十四日四十四年度ノ終業式ヲ執行ス○三十一日四十四年入學志願者四十五名ニ就キ、選拔試験ヲ施行シ、本科一年生三十一名ノ入學ヲ許可ス○四十四年七月十三日本校別科廢止ノ準備トシテ別科生徒四十三名ヲ富山縣立富山中學校ニ編入セシメラル



○第一編 法令

第一 專門學校令

(明治三十六年三月二十七日勅令第六十一號)

第一條 高等ノ學術技藝ヲ教授スル學校ハ專門學校トス

專門學校ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ規定ニ依ルベシ

第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ限り專門學校ヲ設置スルコトヲ得

但シ沖繩縣ハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 私人ハ專門學校ヲ設置スルコトヲ得

第四條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ

第五條 專門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムベシ但シ美術音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル專門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其入學資格ヲ定ムルコトヲ得

前項檢定ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

第六條 專門學校ノ修業年限ハ三箇年以上トス

第七條 專門學校ニ於テハ豫科、研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其ノ程度并豫科、研究科及別科ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム

公立又ハ私立ノ專門學校ノ修業年限、學科、學科目及其程度并豫科、研究科及別科ニ關スル規定ハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ專門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立專門學校ノ職員ノ旅費及給與ニ關スル規程ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十一條 公立ノ專門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スベシ但特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收セザルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セザル學校ハ專門學校ト稱スルコトヲ得ズ

附則



第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルベキモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ第四條ニ準シ認可ヲ申請スベシ  
前項ノ手續ヲナサルモノハ前項ノ期限ノ滿了ト共ニ廢校シタルモノト看做ス

第一項ノ手續ヲ爲スモ不認可ノ命令ヲ受ケタルモノハ其命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタルモノト看做ス

第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京外國語學校、東京美術學校及東京音樂學校ハ本令施行ノ日ヨリ專門學校トス

第二 公立私立專門學校規程 (明治三十六年三月三十一日 文部省令第十三號)

第一條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ設置ノ認可ヲ受ケントスルモノハ公立學校ニ在リテハ管理者、私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ

具シ文部大臣ニ申請スベシ

- 一 目的
  - 二 名稱
  - 三 位置
  - 四 學則
  - 五 生徒定員
  - 六 敷地建物ノ圖面及其ノ所有ノ區別
  - 七 開校ノ年月
  - 八 經費及維持ノ方法
  - 九 設立者ノ履歷
- 醫學專門學校ニ就キテハ臨床實習用病院ノ位置、敷地建物ノ圖面、臨床實習用患者ノ定員及解剖用屍躰ノ豫定數ヲ具スベシ
- 第一項第二項ノ敷地ニ關スル圖面ニハ面積、地質及附近ノ狀況ヲ記シ且飲料水質ノ調査書ヲ添付スベシ
- 第一項第一號乃至第七號及第二項ニ掲ゲタル事項ノ變更ハ文部大臣ノ認可



ヲ受クベシ

第一項第八號ニ掲ゲタル事項ノ變更ハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ベシ

第二條 専門學校ハ校地、校舍、校具、其他必要ノ設備ヲ爲スベシ

第三條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルベシ

第四條 校舍ニハ左ノ諸室ヲ備フベシ

一 教室

二 事務室

三 其ノ他必要ナル實驗室、實習室、研究室、圖書室、器械室、標本室、藥品室、製煉室等ノ諸室

校舍ハ教授上管理上并衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第五條 校具ハ教授上必要ナル圖書、器械、器具、標本、模型等トス

第六條 専門學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備フベシ

一 學則、日課、教科用圖書配當表

二 職員ノ名簿及履歷書、出勤簿、擔任學科目及時間表

三 生徒學籍簿、出席簿、徴兵、猶豫ニ關スル書類

四 試験ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算、決算ニ關スル帳簿

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學、轉學、退學ノ年月日及學年卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學退學ノ事由、徴兵事故、保証人ノ氏名及居所等ヲ記載スベシ

別科ノ生徒ニ關シテハ出席簿、徴兵、猶豫ニ關スル書類ヲ省略シ及學籍簿ノ記入事項ヲ便宜省略スルコトヲ得

第七條 専門學校ノ教員タルコトヲ得ベキ者左ノ如シ

一 學位ヲ有スル者

二 帝國大學分科大學卒業者又ハ官立學校ノ卒業者ニシテ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 文部大臣ノ指定シタル者

四 文部大臣ノ認可シタル者

前項第一號乃至第四號ニ該當スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ文部大臣ノ認可



ヲ受ケ一時他ノ者ヲ以テ教員ニ代用スルコトヲ得  
前二項ニ依リ認可ヲ受ケントスル場合ニハ公立學校ニ在リテハ管理者私立  
學校ニ在リテハ設立者ニ於テ本人ノ履歷書ヲ具シ文部大臣ニ申請スベシ但  
シ奏薦ニ依リ命任セラル、者ニ就テハ別ニ認可ノ手續ヲ經ルコトヲ要セズ  
文部大臣ハ必要ト認ムルトキハ前項ノ場合ニ於テ學術ノ檢定ヲ行フコトヲ  
ルベシ

本條ニ依ル文部大臣ノ認可ハ當該學校在職中ニ限リ有効トス

第八條 專門學校ニ於テ本科生徒ヲ入學セシムルハ毎年一回トス其期間ハ三  
十日以内トス但シ學科課程相同シキ專門學校間ニ於ケル生徒ノ轉學ニハ本  
文ヲ適用セズ

專門學校ノ本科第二學年以上ニ入學ヲ許スベキ者ハ本科第一學年ニ入學ス  
ルコトヲ得ル資格ヲ有シ且前各學年ノ學科課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力  
ヲ有スル者タルベシ學年級ヲ設ケザル專門學校ニ就キテモ亦之ニ準ズ  
前項入學者ノ學力ハ總テ試験ニ依リ之ヲ檢定スベシ

第九條 美術學校、音樂學校ノ入學資格ハ中學校若ハ高等女學校第三學年修了

ノ程度以上ニ於テ之ヲ定ムベシ

第十條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命ズベシ

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一箇年以上缺席シタル者
- 四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

第十一條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得  
第十二條 專門學校ノ學則中ニ規定スベキ事項凡ソ左ノ如シ

- 一 入學資格、修業年限、學科、學科目、學科程度ニ關スル事項
- 二 學年、學期、休業日ニ關スル事項
- 三 入學、退學、進級、卒業等ニ關スル事項
- 四 懲戒ニ關スル事項
- 五 入學料、授業料ニ關スル事項
- 六 豫科、研究科、別科ニ關スル事項
- 七 寄宿舍ニ關スル事項



第十三條 專門學校令第四條ニ依リ專門學校ノ廢止ノ認可ヲ受ケントスルモノハ其理由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スベシ

第十四條 專門學校令第十五條ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケントスルモノニ付テハ本令第一條ヲ準用ス

第十五條 實業專門學校ニ關シテハ特別ノ規定アル場合ニハ本令ヲ適用セズ

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

明治十五年文部省達第四號同第五號及同第六號中甲種藥學校ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

第三 專門學校入學者檢定規程

(明治三十六年三月三十一日  
文部省令第十四號)

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若クハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業セザル者ハ此ノ規程ニ依リ檢定ヲ受クベキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一 年齢男子ハ滿十七歳以上女子ハ滿十六歳以上ナルコト

二 身軀健全ナルコト

三 品行方正ナルコト

四 現ニ中學校若クハ高等女學校ニ在學セザルコト

第三條 檢定ヲ分チテ試験檢定無試験檢定ノ二トシ試験檢定ハ官立公立ノ中學校若クハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該專門學校ニ於テ入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試験檢定ノ學科目及其程度ハ中學校若クハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其卒業ノ程度トス但シ中學校若クハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セザルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立公立ノ中學校若クハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタル者ニハ試験檢定合格證書ヲ交付スベシ

第六條 官立公立ノ中學校若クハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問題答案及成績表ハ五箇年以上保存スベシ

第七條 官立公立ノ中學校若クハ高等女學校ハ試験檢定手数料ヲ徵收スルコ



トヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 文部大臣ニ於テ専門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者
- 二 明治三十五年文部省告示第八十二號ニ依リ高等學校入學ノ豫備試験ニ合格シタル者

附則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

第四 専門學校入學者檢定規程ニ依リ無試験檢定ヲ

受クルコトヲ得ル者ノ指定

明治三十六年文部省令第十四號専門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ依リ

無試験檢定ヲ受クルコトヲ得ル者ヲ指定スルコト左シ如シ

府縣名	校名	文部省告示番號年月日
官立	學習院中等科及元尋常中學校卒業者	明治三六、五、六日告示第九九號

全	上	官立臺灣總督府國語學校中學部卒業者 但シ明治三十三年四月二日以後ノ卒業者ニ限ル	全	上
全	上	臺灣總督府國語學校第三附屬高等女學校卒業者	明治三八、四、一八日告示第七五號	
全	上	臺灣總督府中學校第二部卒業者	明治四〇、一、三〇日告示第二八五號	
全	上	陸軍中央幼年學校本科卒業者	明治三八、七、二一日告示第一二二號	
府縣立		師範學校元尋常師範學校及元師範學校高等師範學校卒業者	明治三六、五、六日告示第九九號	
東京府		東京府私立明治學院普通部卒業者 但シ明治三十三年七月十七日以後ノ卒業者ニ限ル	全	上
全	上	東京府私立青山學院中等科卒業者 但シ明治三十四年五月三日以後ノ卒業者ニ限ル	全	上
全	上	東京府私立眞宗東京中學卒業者 但シ明治三十三年二月二十七日以後ノ卒業者ニ限ル	全	上
全	上	東京私立第一佛敎中學卒業者 但シ明治三十五年二月十九日以後ノ卒業者ニ限ル	全	上
全	上	東京府私立新義眞言宗豊山派 <sup>尋常</sup> 中學校 <sup>高等</sup> 科卒業者 但シ明治三十四年十二月十八日以後ノ卒業者ニ限ル	全	上



東京府	私立曹洞宗第一中學林卒業者 但シ明治三十六年十二月十二日以後ノ卒業者ニ限ル	明治三七、三、十二日 告示第四九號
全上	東京府私立天臺宗東部中學卒業者 但シ明治三十六年十二月十八日以後ノ卒業者ニ限ル	明治三七、三、二九日 告示第六九號
全上	東京府私立慶應義塾普通部卒業者 但シ明治三十九年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治三九、一、一三日 告示第一號
全上	東京府私立淨土宗第一教區宗學教授卒業者 但シ明治三十九年三月以後ノ卒業者ニシテ別科生タラザリ	明治三九、三、二日 告示第二九號
全上	東京府私立東京學院中等科卒業者 但シ明治三十九年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治三九、三、九日 告示第四二號
全上	東京府私立日蓮宗大學林中等科卒業者 但シ明治三十八年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治四〇、三、八日 告示第六三號
京都府	京都府私立同志社普通學校卒業者 但シ明治三十三年四月二日以後ノ卒業者ニ限ル	明治三六、六、一六日 告示第一一九號
全上	京都府私立眞宗京都中學卒業者 但シ明治三十三年一月廿九日以後ノ卒業者ニ限ル	全上
全上	京都府私立古義眞言宗聯合中學卒業者 但シ明治三十八年一月七日以後ノ卒業者ニ限ル	明治三八、四、一九日 告示第七六號
全上	京都府私立第五教區宗學教授第一部卒業者 但シ明治三十九年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治三九、三、六日 告示第三五號

全上	京都府私立花園學院中學部卒業者 但シ明治四十一年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治四一、二、一〇日 告示第三二號
大阪府	大阪府私立淨土宗第六第七教區聯合教授卒業者	明治三九、三、二日 告示第三〇號
三重縣	三重縣私立眞宗勸學院中學科卒業者 但シ明治三十五年九月二十日以後ノ卒業者ニ限ル	明治三六、五、六日 告示第九九號
宮城縣	宮城縣私立東北學院普通科卒業者 但シ明治三十五年一月十六日以後ノ卒業者ニ限ル	明治二六、六、一六日 告示第一一九號
全上	宮城縣私立曹洞宗第二中學林卒業者 但シ明治三十八年三月十四日以後ノ卒業者ニ限ル	明治三八、四、二八日 告示第八七號
佐賀縣	佐賀縣私立第五佛敎中學卒業者 但シ明治三十九年四月二十七日以後ノ卒業者ニ限ル	明治三八、二、一三日 告示第三三號
山口縣	山口縣私立曹洞宗第四中學林卒業者 但シ明治三十八年一月七日以後ノ卒業者ニ限ル	明治二八、六、一日 告示第一〇一號
愛知縣	愛知縣私立曹洞宗第三中學林卒業者 但シ明治三十八年六月以後ノ卒業者ニ限ル	明治二八、七、一日 告示第一一四號
和歌山縣	和歌山縣私立耐久學舎第一部卒業者 但シ明治三十九年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治三九、六、一六日 告示第一三六號
全上	和歌山縣私立古義眞言宗聯合高野中學林卒業者 但シ明治四十三年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治四三、三、一九日 告示第九三號



廣嶋縣	廣嶋縣私立第四佛教中學卒業者 但シ明治四十年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治四〇、三、一六日 告示第七二號
新潟縣	新潟縣私立有恒學舎本科卒業者 但シ明治四十年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治四〇、三、二一日 告示第八二號
長崎縣	長崎縣私立東山學院卒業者 但シ明治四十一年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治四〇、八、一日 告示第二〇九號
全上	長崎縣私立鎮西院中學部卒業者 但シ明治四十一年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治四一、四、八日 告示第一三四號
兵庫縣	兵庫縣私立關西學院普通科卒業者 但シ明治四十四年三月以後ノ卒業者ニ限ル	明治四二、八、六日 告示第二二二號
千葉縣	千葉縣立園藝專門學校豫科卒業者 但シ元私立松戸中學生徒ニシテ在學スル者ニ限ル	明治四三、二、二八日 告示第二九號
滋賀縣	滋賀縣私立第三佛教中學卒業者 但シ明治三十八年一月十六日以後ノ卒業者ニ限ル	明治三八、三、一四日 告示第一六一號

第五 學生生徒身體檢查規程 (明治三十三年三月二十六日) (文部省令第四號) (改正三十七年第一八號)

第一條 學生々徒ノ身體檢查ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スベシ

學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ學生生徒ニ就キ臨時身體檢查ノ全部若ク

ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

第二條 明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カザル町村立學校及私立ノ小學校及各種學校ハ本令ノ身體檢查ヲ行ハザルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムベシ但シ學校醫ヲ置カザル場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第四條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スベシ

一身 長 二 眸 重 三 胸 圍 四 脊 柱

五 眸 格 六 視 力 七 眼 疾 八 聽 力

九 耳 疾 十 齒 牙 十一 疾病

小學校生徒ニ在リテハ視力及聽力ノ二項目ヲ檢查スルコトヲ要セズ但シ著シキ障害アリト認ムル者ハ此限ニ在ラズ

第五條 身體檢查ハ左ノ各號ヲ準據シテ施行スベシ

一 檢查器械ハ「メートル式」ニ從ヒ衡器ハ水準器ヲ具ヘタルモノヲ可トス

二 檢查ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハセ「センチメートル」ヲ以テ一位トシ以下四拾五入法ヲ用ヒテ小數一位ヲ作ルベシ



- 三 身長ヲ測定スルニハ足袋靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上枝ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムベシ又女子ニシテ鬢アル者ハ小桿ヲ鬢下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スベシ
- 四 躰重ハ着衣ノ儘測定シタルトキハ其着衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スベシ
- 五 胸圍ハ兩上枝ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニ在ラシメ乳頭ノ水平線ニ於テ常時ヲ測定スベシ充盈空虛ノ差ヲ測定スルトキ亦同シ但シ小學校生徒ニ在リテハ常時ノミヲ測定スルモノトス
- 六 脊柱ハ正左彎右彎後屈及屈彎ノ程度ヲ検査シ強中弱ノ三種ニ區別スベシ
- 七 躰格ハ強健中等薄弱ノ三等ニ區別スベシ
- 八 視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キテ各別ニ検査スベシ
- 九 聽力ハ其障害ノ有無ヲ検査スベシ
- 十 齒牙ハ齲齒ノ有無ヲ検査スベシ
- 十一 疾病ハ腺病營養不良貧血脚氣肺結核頭痛衄血神經衰弱其他慢性疾患

等検査ノ際ニ發見シタルモノヲ記入スベシ

前各號ノ外躰検査上必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フベシ

第六條 躰検査ヲ施行シタルトキハ左ノ様式ニ依リ躰検査票ヲ調製スベシ(様式ヲ略ス)

第七條 躰検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ左ノ様式ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月限り文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ其他ノ學校長ニ在リテハ地方長官ニ報告スベシ

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取り纏メ其年六月限り文部大臣ニ報告スベシ(様式ヲ略ス)

第八條 幼稚園ニ於テハ本令中小學校生徒ノ躰検査ニ關スル規定ヲ準用ス

附 則

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第六 富山縣公立學校職員職務規程

(明治四十一年七月三日  
富山縣訓令甲第四十二號)

第一章 總 則



第二章 職務

第三章 服務

第四章 學校長章程

第五章 附則

第一章 總則

第一條 本規程ニ於テ職員ト稱スルハ師範學校、中學校、高等女學校、實業學校及其他小學校ニアラサル公立學校ノ職員ヲ謂フ第二章ノ規定ハ師範學校職員ヲ包含セズ

第二條 職員ヨリ郡市長知事ニ提出スル文書ハ學校長ヲ經由シ郡長宛ノモノハ管理者ヲ知事宛ノモノハ管理者郡長ヲ經由スベシ  
學校長管理者又ハ郡長ニ於テ前項ノ文書ニ對シ意見アルトキハ其旨副申スベシ

第二章 職務

第三條 學校長ハ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 教諭ハ生徒ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 舍監ハ寄宿舎ニ關スル事ヲ掌ル

第七條 訓導ハ實業補習學校生徒ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第八條 書記ハ庶務會計ニ従事ス

第三章 服務

第九條 職員ハ始業時刻前ニ出校シ終業時限後ニ退出スベシ

第十條 職員出勤シタルトキハ先ツ出勤簿ニ捺印スベシ

第十一條 職員病氣ノ爲出勤シ難キトキハ始業時刻前ニ届出ヅベシ

第十二條 職員欲勤日數七日ヲ超ユルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ更ニ届出デ爾後十日毎ニ同上ノ手續ヲナスベシ

第十三條 職員忌引セントスルトキハ死亡者トノ關係及其死亡月日ヲ明記シテ届出ヅベシ

第十四條 職員父母ノ祭日ニ當リ出校セザルトキハ前日ニ届出ヅベシ

第十五條 職員轉地療養、墓參、看護(父母病氣ニシテ看護者ナキ場合)休業中歸省等ノ爲欲勤若クハ旅行セントスルトキハ其事由旅行先并ニ日數ヲ具シ願出ヅベシ但シ轉地療



養願ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スベシ

學校長休業中ニ旅行セントスルトキハ出發三日以前ニ届出ヅベシ

第十六條 第十一條乃至第十五條ノ書類ニシテ學校長ニ係ルモノハ町村立ニアリテハ郡長ニ、市立ニアリテハ市長ニ、縣立ニアリテハ知事ニ其他ノ職員ニ係ルモノハ學校長ニ提出スベシ

第十七條 職員陸海軍ニ召集セラレタルトキ若クハ六週間現役ニ服スルトキハ出發歸着共ニ知事ニ届出ヅベシ

第十八條 職員(學校長奏任待遇者及舎監ヲ除ク)ハ授業時間外及休業日ニハ交番ニ當直スベシ

第十九條 職員管外ニ出張シタルトキハ復命書ヲ第十六條ニ準ジ七日以内ニ提出スベシ

第二十條 職員轉任、退職、休職ノ場合ニハ學校長ハ後任者又ハ代理者ニ校務ヲ其他ノ職員ハ學校長ノ指揮ニ從ヒ事務ヲ引繼グベシ

學校長校務ノ引繼ヲ了シタルトキハ雙方連署シ町村立ニアリテハ郡長ニ、市立ニアリテハ市長ニ、縣立ニアリテハ知事ニ開申スベシ

第二十一條 學校長事故アルトキハ首席教諭校長ノ代理ヲナスベシ

#### 第四章 學校長掌程

第二十二條 學校長ハ校務ヲ處理スル爲細則ヲ設ケ知事ニ開申スベシ

第二十三條 學校長ハ左ノ各號ニ就キ町村立ニアリテハ郡長ニ、市立ニアリテハ市長ニ縣立ニアリテハ知事ニ内申スルコトヲ得

##### 一 職員ノ進退

但シ職員ノ採用及増俸ノ場合ハ様式第一號ノ事項ヲ具フルヲ要ス

##### 二 學校長ノ出張及職員ノ縣外出張

但シ様式第二號ノ事項ヲ具フルヲ要ス

第二十四條 學校長ハ左ノ各號ニ就キ知事ニ稟申スベシ

一 傳染病豫防非常災變又ハ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ要スルトキ但シ急遽ノ場合ハ處分後開申スベシ

二 修學旅行、水泳術練習、又ハ發火演習ノ爲メ宿泊ヲ要スルトキ

但シ左ノ事項ヲ具シ五日以前ニ稟申スルヲ要ス

イ 旅行ノ目的并目的地



- ロ 出發及歸着ノ期日
  - ハ 學年別在級人員及旅行人員
  - ニ 生徒一人ニ要スル費用額
  - ホ 附添職員ノ職氏名
  - ヘ 教師ノ職氏名（水泳術練習ノ場合）
- 第二十五條 學校長ハ左ノ第一號ニ就キ町村立ニアリテハ郡長ニ、市立ニアリテハ市長ニ、縣立ニアリテハ知事ニ其他ノ各號ニ就キテハ知事ニ開申スベシ
- 一 職員縣内出張并即日歸リ縣外出張 開申期日施行三日前
  - 二 授業始終時限ノ變更 開申期日施行三日前
  - 三 三學期及學年試驗ノ期日 開申期日施行七日前
  - 四 卒業式期日 開申期日三月十日前
  - 五 運動會一日限リ修學旅行、發火演習 開申期日施行三日前
- 但シ第二十四條第二號ニ準シ各事項ヲ備フルヲ要ス
- 開申後變更シタル場合ハ即日開申スベシ
- 六 學校長出張ノ出發日歸着日 開申期日即日

七 高等小學校長トノ打合會 開申期日施行三日前

第二十六條 學校長ハ左ノ各號ニ就キ知事ニ報告スベシ

但シ特ニ報告期限ヲ定メタルモノ、外ハ處分後直ニ報告スルヲ要ス

- 一 卒業生ノ郡市別氏名
  - 二 生徒ノ定期入學ニ係ル郡市別人學志願者、入學者并其歩合統計  
入學前ノ學業經歷別、入學志願者、入學者并其歩合統計
  - 三 教員ノ擔任學科及教授時數ノ變更
  - 四 特待生ノ郡市、學年氏名
  - 五 退學生徒（生徒ノ出願ニヨラザルモノ）懲戒生徒ノ郡市學年氏名并其事由
  - 六 職員出勤表 様式第三號
  - 七 生徒表 様式第四號
  - 八 學校一覽表 様式第五號
  - 九 學校年度誌 様式第六號
- 第二十七條 縣立學校長ハ左ノ各號ニ就キ其事由ヲ具シ知事ニ稟申スベシ
- 一 經費ノ流用



二 豫算定額内ニ於テ一廉百圓以上ノ支出ヲ要スルトキ

但シ様式第二號豫算調ヲ附記スルヲ要ス

第二十八條 縣立學校長ハ左ノ各號ニ就キ專行スベシ

一 生徒縣外修學旅行附添職員ノ出張

二 學校長即日歸リノ上縣出張

但縣廳備付ノ上縣簿ニ其用件ヲ記入シ署名捺印スベシ

三 助手、小使、門監ノ進退

四 不用品及生徒製作品、農産物ノ賣却

第二十九條 縣立學校長ハ毎年六月三十日限リ翌年度ノ收入支出ニ關スル豫

算ヲ調製シ知事ニ提出スベシ

第三十條 學校長ハ本規程以外ノ事項ト雖モ意見アルトキハ知事ニ具申スル

コトヲ得

第五章 附 則

一 本規程ハ發布ノ日ヨリ施行ス

二 明治四十一年學校一覽表ハ七月二十日學校四十年誌ハ八月三十一日ヲ

提出期限トス

三 學校管理者ハ其市町村立學校長ト協議シ本規程施行ニ關シ必要ナル細則

ヲ設クコトヲ得

四 左ノ達訓令ハ之ヲ廢止ス

明治二十一年達第三百三十三號師範學校職員服務心得

全二十八年達甲第三號縣立學校職制

全達甲第四號縣立學校職員服務心得

全三十三年訓令乙第四十六號教員受持學科及教員出缺勤報告

全三十四年訓令乙第四十六號分校管理ノ爲學校長出張ノ件

全三十六年達第九十二號縣立學校長處務規程

全訓令甲第七十八號公立學校修學旅行規程

全訓令甲第八十一號公立學校運動會規程

全訓令乙第百十五號師範學校附屬小學校修學旅行ノ件

様式第一號

職員採用具申所要事項



- 一 擔任教科并其學年
- 二 教科并學年別每週擔任教授時間數
- 三 採用ヲ要スル事由
- 四 履歷書  
明治三十六年本縣訓令甲第五十四號ニ依リ之ヲ認タメ受有ノ學校卒業證書  
教員免許狀寫ノ添付ヲ要ス
- 五 身元證明書(初任者ニ限ル)  
明治三十三年勅令第三百三十四號教員免許令第五條ニ依リ證明シタルモノ
- 六 身体検査書  
明治三十一年文部省令第七號學校醫ノ資格第一條ニ該當シタル醫師ニ於テ  
明治三十三年文部省令第四號身軀検査規程ニ依リ調製シタルモノ  
但シ採用具申ノ際特ニ診斷シタルモノヲ要ス
- 七 豫算調

俸給豫算額	同上月額	職員定數	職員現員	具申俸給	俸給殘額
					月額

職員増俸具申事項  
増俸ヲ要スル事由

増俸額	現俸額	現俸ヲ受ケタル年月日	現俸ヨリ増俸マテノ年月數	職氏名

- 三 豫算調  
前項ノ七ニ同シ  
様式第二號  
職員出張具申事項
- 一 出張先并其事由
- 二 出張日數
- 三 豫算調

豫算額	支拂額	未支拂額	具申支出額	豫算殘額
-----	-----	------	-------	------



様式第三號

何年何學校

職員出勤表

期限翌月五日

普通 出勤 旅行 日數	校務 遲參 早退 日數 度數 時數	休日 出勤 計	出勤日數		官職氏名
			私事 出勤 賜暇 忌引 計	飲勤 日數	

備考

- 一 遲參ハ始業時間ニ遅レテ出勤シタルモノ、早退ハ終業時間ニ先チテ退キタルモノ
- 一 休日出勤ハ特ニ命シタル者ノ出勤日數
- 一 當直ハ出勤日數ニ加ヘズ
- 一 私事欠勤ハ旅行、轉地療養、病氣引籠等ノ日數

様式第四號

何年何學校生徒表

期限翌月五日

總員數	内 何學年	譯 補習科	前 月分 員數	比較		在籍 生徒 數	出 席 生徒 數	日々在籍 生徒平均 數	日々出席 生徒平均 數	在籍 歩合	入 學	退 學	休 學
				増	減								

備考

- 一 學校ノ種別ト本科豫科、講習科別科等ノ區別ニ依リ項ヲ別ニスベシ















學 事 經 濟										并 = 教 科 用 圖 書							
價 格	資 產	算 費 豫	本 年 度	生 徒 學 費 概 算	寄 宿 舍 費 (年 概 算)	舍 費 食 費 計 (年)	授 業 料	被 服	文 具 費 諸 雜 計	合 計	教 科 用 圖 書	數 學	博 物	物 理	法 制 經 濟	圖 書	
																	體 給
	敷 地 價																
	附 屬 地 價																
	家 屋 價																
	圖 書 價																
	器 具 價																
	備 考																

校 舍 地 略 圖	
<p>一 師範學校入學者ハ正教員准教員高等卒業等ニ區別スベシ</p> <p>一 學校ノ編制上本科豫科補習科ノ別アラハ各之ヲ區別シテ掲クベシ</p> <p>一 被服費、文具費、諸雜費ハ其内譯ヲ備考欄ニ記述スベシ</p> <p>一 校舎地略圖ハ前年ト同シキモノハ記載ヲ略スルコトヲ得</p>	

學校一覽表附錄  
各教科擔任別每週教授時數表

修 身	一 學 年 組		二 學 年 組		總 時 數 擔 任 時 數	職 氏 名
	時 數 擔 任 者	誰	時 數 擔 任 者	誰		
○					○	教 諭
○					○	教 諭
○					○	助 教 諭
						、 、 、
						、 、 、







第五章 會計

第一節 經費

第二節 資產

第六章 雜件

富山縣何學校明治何年度誌

第一章 總說

其年度中掌理シタル校務ニ就キ概說スベシ

第二章 庶務

第一節 學校

一 設立年月日

編制

學校ノ位置

四周ノ狀況

校地ノ取擴メ

校舍ノ建築、増築、修繕

校地ノ略圖

校舍配當圖

御眞影

勅語、謄本、下賜年月日

其他

第二節 處務

校務ノ重ナルモノニツキ、月日順ニ記述スベシ

例

一 何月

何日、、、、

何日、、、、

第三節 法規

左ノ事項ニツキ分類シテ其年度中ニ發令若クハ改廢セラレタルモノノ年月日、番號、題目、摘要ヲ記述スベシ

一 法律、勅令

文部省令、全訓令

富山縣令、全訓令

達、告示、通牒

學校制定ノ規程細則

其他

但シ明治四十年年度誌ニハ現在ノ總諸法規ヲ本文ニ準シ學校制定ノ規程細則ハ全文ヲ記スルヲ要ス

例



一 法律

發令年月日	番	號	題	目	摘	要

第三章 職員生徒

第一節 職員

- 一 職氏名
- 位階勳等
- 出身學校
- 免許狀
- 主任學級學年
- 擔任學科
- 每週教授時數
- 俸給額
- 出勤、缺勤日數
- 遲刻、早退數
- 進退ノ事由年月日
- 但年度中轉任、退職、休職、死亡者ハ朱書スベシ
- 一 俸給統計 最多、最少、平均額
- 資格統計 有資格者數、無資格者數、其歩合
- 勤務統計 皆勤者數并職員總數トノ歩合

遲刻者數并職員總數トノ歩合  
早退者數并職員總數トノ歩合

一 其他

第二節 生徒

- 一 生徒定員
- 一 在籍生徒
- 一 郡市、年齡(最長、最少、平均)、父兄ノ職業、入學前ノ學業經歷、宿所(寄宿、自宅、通學、其他)ニツキ各學年別統計
- 一 卒業者
- 郡市、年齡、父兄ノ職業、入學前ノ學業經歷、將來ノ希望ニ付各個人別調并其統計、前學年卒業者ノ現在狀況調(職業等)
- 但明治四十年度誌ニハ創立以來ノ卒業者ニツキ現在狀況統計ヲ附スルヲ要ス
- 一 入學者
- 入學者ノ郡市別氏名



入學志願者ト入學者トノ郡市別數并其歩合

入學者ノ年齡、父兄ノ職業、入學前ノ學業經歷統計

一 退學者

郡市、事由、月ノ學年別統計

一 身 躰

體格(強健、中等、薄弱ノ三等)體重(最大、最少、平均)

身長(最大、最少、平均)ニツキ各學年別統計

一 其 他

第四章 教 務

第一節 教 授

一 教科書

書名、著者、採定年月日、保使用年

一 教授口數

規程教授日數、教授セシ日數

一 各教科教授時數

一 規程教授時數、教授セシ時數、教授セザリシ時數并其事由

一 教授法改良并ニ教授法研究狀況

一 新調教授器械、標本并圖書品目、價格、使用目的

一 其 他

第二節 訓 練

一 訓練ノ方針

一 學訓、校歌

一 教科外生徒作業狀況

一 寄宿舍狀況

一 生徒ノ宿所監督狀況

一 其 他

第三節 成 績

一 試驗期日

一 試驗問題

入學試驗、學期試驗、學年試驗



- 一 學年別及第、落第統計
  - 一 落第者、入學前學業經歷トノ關係
  - 一 及第者成績等級別ト入學前學業經歷トノ關係
  - 一 學年別各教科成績等級統計
  - 一 賞罰統計
  - 一 特待生
  - 一 學年、郡市、氏名
  - 一 其他
- 第五章 會計
- 第一節 經費
- 一 收入支出
  - 一 豫算、決算、對照表
  - 一 但シ各費目ニ關スル狀況ヲ記スベシ
- 第二節 資產
- 一 學事報告例、公學資產表ニ準シ記スベシ

第六章 雜錄

- 一 家庭訪問
- 一 訪問方法、訪問者、其結果等
- 一 父兄懇話會
- 一 開催方法、來會者、其結果等
- 一 運動會
- 一 開催方法、運動ノ種類、身体上ノ効果、訓練上ノ効果、經費等
- 一 修學旅行（發火演習ヲ含ム）
- 一 施行方法、旅行生徒、監督職員、其効果、經費等
- 一 水泳術練習
- 一 施行方法、出席生徒、教師、監督職員、成績、身体狀況、水泳外ノ付帶施設、經費、水泳ニ關スル意見等
- 一 高等小學校長トノ打合せ會
- 一 開催方法、打合せ事項等
- 一 官公吏巡視



巡視者官職氏名巡視事項等

一 參觀者

參觀者職業別調參觀事項等

一 其他

第七 富山縣立藥學專門學校規程

(明治四十二年八月六日 富山縣令第三十五號)

第一章 設置學科

第二章 目的、修業年限、生徒定員

第三章 職員

第四章 學科課程、教授時數

第五章 學年、教授日數、休業日、式日

第六章 入學

第七章 休學、退學及懲戒

第八章 成績考查及卒業

第九章 授業料

第十章 寄宿舎及生徒取締

第十一章 別科

第十二章 附則

第一章 設置學科

第一條 本校ニハ本科及別科ヲ置ク

第二條 本科ニ關スル規程ハ第二章乃至第十章ニ別科ニ關スル規程ハ第十一章ニ之ヲ定ム

第二章 目的、修業年限、生徒定員

第三條 本科ハ專門學校令ノ旨趣ニ基キ藥學ヲ教授スルヲ以テ目的トス

第四條 本科ノ修業年限ハ三箇年トス

第五條 本科ノ生徒定員ハ九十名トス

第三章 職員

第六條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

教諭







計	體操	機械學大意		二九	三四	四〇
		理	論			
		實	習	三	不定時	不定時
					二	二

教授上各學期ノ教授時數ヲ異ニスル必要アルトキハ學校長ハ前表教授時數ノ範圍内ニ於テ適宜ニ各學期ノ每週教授時數ヲ定ムルコトヲ得

第五章 學年教授日數休業日式日

第八條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第九條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十條 授業日數ハ每學年二百日以上トス但シ傳染病豫防ノ爲其ノ他非常變

災又ハ特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニアラズ  
試験及修學旅行ニ充ツル日ハ前項ノ日數ニ算入セズ

第十一條 休業日左ノ如シ

日曜日

大祭日祝日

創校紀念日

夏季休業 七月二十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

冬季休業 十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル

學年末休業 三月二十五日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第十二條 紀元節天長節一月一日及創校紀念日ニハ相當ノ儀式ヲ行フベシ

第六章 入學

第十三條 入學ノ期ハ每學年ノ始トス

生徒ノ募集員數及其ノ期日等ハ其ノ都度公示ス

第十四條 入學スルコトヲ得ル者ハ男子ニシテ左ノ事項ニ該當スルヲ要ス

一 身躰健全品行方正



二 年 齡 十 七 年 以 上

三 學 力

イ 中 學 校 卒 業 者

ロ 專 門 學 校 入 學 者 檢 定 規 程 ニ 依 ル 試 驗 檢 定 ニ 合 格 シ タ ル 者 (三 十 六 年 三 月 文 部 省 令 第 十 四 號)

ハ 專 門 學 校 入 學 者 檢 定 規 程 第 八 條 第 一 號 ノ 指 定 ヲ 受 ケ タ ル 者

第 十 五 條 入 學 志 願 者 ハ 左 ノ 書 類 ヲ 學 校 長 ニ 差 出 ス ベ シ

一 入 學 願 書 書 式 第 一 號

二 中 學 校 長 卒 業 證 明 書 若 ハ 專 門 學 校 入 學 者 檢 定 規 定 ニ 依 ル 檢 定 合 格 證 明 書

三 戶 籍 謄 本

第 十 六 條 入 學 志 願 者 ハ 入 學 願 書 ノ 提 出 ト 共 ニ 手 數 料 金 貳 圓 ヲ 納 付 ス ベ シ

既 納 ノ 手 數 料 ハ 如 何 ナ ル 事 由 ア ル モ 之 ヲ 返 付 セ ズ

第 十 七 條 學 校 長 ハ 入 學 志 願 者 ノ 身 躰 ヲ 檢 定 シ 人 物 ヲ 考 査 シ テ 入 學 ヲ 許 否 ス ベ シ

入 學 志 願 者 募 集 人 員 ニ 超 過 ス ル ト キ ハ 前 項 ノ 外 左 ノ 學 科 目 ニ 就 キ 中 學 校 卒 業 程 度 ニ 依 リ 試 驗 ヲ 執 行 シ テ 入 學 者 ヲ 選 拔 ス ベ シ

國 語、數 學、外 國 語、理 化

第 十 八 條 保 證 人 ハ 正 副 二 人 ト ス

第 十 九 條 正 保 證 人 ハ 志 願 者 ノ 戶 主 (戶 主 未 成 年 ナ ル ト キ ハ 後 見 人) ト ス 但 シ 志 願 者 戶 主 ニ シ テ 成

年 ナ ル ト キ ハ 成 年 ノ 男 子 ニ シ テ 獨 立 ノ 生 計 ヲ 爲 シ 生 徒 ノ 身 上 ニ 關 シ 一 切 ノ 責 ニ 任 ス ベ キ 者 タ ル ヲ 要 ス

副 保 證 人 ハ 學 校 所 在 地 若 ハ 其 ノ 附 近 ニ 居 住 ス ル 成 年 ノ 男 子 ニ シ テ 獨 立 ノ 生 計 ヲ 爲 シ 生 徒 ノ 身 上 ニ 關 シ 一 切 ノ 責 ニ 任 ス ベ キ 者 タ ル ヲ 要 ス

第 二 十 條 正 保 證 人 ハ 入 學 願 書 ニ 連 署 ス ベ シ

副 保 證 人 ハ 生 徒 入 學 ヲ 許 可 セ ラ レ タ ル 日 ヨ リ 七 日 以 內 ニ 保 證 書 (書 式 第 二 號) ヲ 學 校 長 ニ 差 出 ス ベ シ

第 二 十 一 條 學 校 所 在 地 若 ハ 其 ノ 附 近 ノ 生 徒 ニ テ 學 校 長 ニ 於 テ 正 保 證 人 一 人 ト 爲 ス ヨ ト ヲ 得

第 二 十 二 條 學 校 長 ニ 於 テ 保 證 人 ヲ 不 適 當 ト 認 メ タ ル ト キ ハ 之 ヲ 變 更 セ シ ム



ベシ

第二十三條 保證人其ノ資格ヲ失ヒ又ハ死亡シタルトキハ直ニ相當ノ保證人ヲ定メ其ノ手續ヲ爲スベシ

保證人轉居改印改名等ノ事故アルトキハ直ニ學校長ニ届出ツベシ

保證人旅行一箇月以上ニ亘ルトキハ相當代理人ヲ定メ直ニ學校長ニ届出ツベシ

第七章 休學、退學及懲戒

第二十四條 生徒疾病ノ爲修學シ能ハザルトキハ其ノ學年間休學ヲ出願スルコトヲ得

第二十五條 陸軍又ハ海軍現役ニ服シ若ハ召集ニ應ズル者ハ其ノ服役又ハ召集期間ハ休學トス

第二十六條 生徒退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ正保證人連署學校長ニ願出スベシ

第二十七條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スベシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 正當ノ理由ナク引續キ一箇月以上缺席シタル者

四 引續キ一箇年以上缺席シタル者

五 出席常ナキ者

第二十八條 學校長ハ生徒ニシテ生徒ノ本分ニ背戾スル者アルトキハ其ノ情狀ヲ審案シ左ノ懲戒ヲ加フベシ

一 譴責

二 謹慎

三 停學

四 放校

第八章 成績考查及卒業

第二十九條 生徒ノ成績ハ操行及學業ニ依リ之ヲ判定ス

第三十條 操行ノ成績ハ日常ノ觀察ニ基キ學業ノ成績ハ日常ノ觀察及試験ノ成績ニ依リ之ヲ定ム

第三十一條 各學業ノ課程ノ修了ハ其ノ學年ノ成績ヲ審案シテ之ヲ決定ス



第三十二條 成績考查方法及試験ニ關スル細則ハ學校長ニ於テ知事ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第三十三條 卒業者ニハ左ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書	
校印	氏名
右ハ本校ノ課程ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス	生年月日
年 月 日	
富山縣立藥學專門學校長位勳爵 氏	名印

第三十四條 生徒ニハ授業料ヲ徴收ス但シ休學者ニハ次學期分ヨリ授業料ヲ免除ス

第九章 授業料

第三十五條 授業料ハ年額金貳拾圓トシ左ノ三學期ニ分納セシム

第一期 八 圓

第二期 七 圓

第三期 五 圓

納付期日ハ各學期共其ノ初月十日マデトス

第三十六條 休學セル者休學ノ事故止ミテ學年ノ半途ヨリ出席シタルトキハ當該學期ノ授業料ハ一箇月金貳圓ノ割ヲ以テ其ノ月分ヨリ指定ノ期日ニ於テ一時ニ納付セシム

第三十七條 授業料ノ納付ヲ滯ルトキハ授業ヲ停止ス

第十章 寄宿舎及生徒取締

第三十八條 生徒其ノ自宅ヨリ通學シ能ハサル者ハ寄宿舎ニ入ラシム但シ設備ノ許サザルトキハ學校長ニ於テ便宜處分スルコトヲ得

第三十九條 生徒ハ本校制定ノ服裝ヲ爲スベシ

第四十條 生徒心得及生徒取締ニ關スル細則ハ學校長ニ於テ知事ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第十一章 別科

第四十一條 別科ハ藥業ニ従事スル者ニ必須ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス



第四十二條 修業年限ハ三箇年トス  
 第四十三條 生徒定員ハ九十名トス  
 第四十四條 學科課程及每週教授時數左表ノ如シ  
 學科課程及每週教授時數

學年及教授時數	第一學年			第二學年			第三學年		
	課程	每週時數	課程	每週時數	課程	每週時數			
修身	道德ノ要領	一	同上	同上	同上	同上			
國語及漢文	國語、講讀、文法、作文	六	國語、講讀、漢文	三	同上	二			
獨逸語	音讀、譯解	三	譯解、作文	二	譯解、文法、會話	一			
數學	算術	六	代數	二	代數	一			
歷史	日本歷史	二	日本、外國歷史	二					
地理	日本地理	二	外國地理	二					
物理	物理ノ大要	二							
化學	化學ノ大要	三							
博物及生理衛生	普通博物、藥用藥物、植物動物ノ概要	三	同上	二	人身生理ノ大要、衛生ノ要旨	三			

學年及教授時數	第一學年			第二學年			第三學年		
	課程	每週時數	課程	每週時數	課程	每週時數			
體操	普通體操	二	同上	二	同上	同上			
分拆學	分拆學ノ大要	三	同上並實習	三	同上並實習	三			
生藥學	生藥ノ大要	二	同上	二	同上	四			
藥化學	藥化學ノ大要	二	同上並實習	二	同上並實習	八			
調劑學	調劑學ノ大要	一	同上並實習	一	同上並實習	二			
藥局方			本邦藥局ノ解釋	一		二			
藥業法規	藥業ニ關スル方規	一	同上	一		一			
計		三〇		三〇		三〇			

第四十五條 入學者資格左ノ如シ

- 一 品行 方正
  - 二 身軀 健全
  - 三 年齡 十四年以上
  - 四 學力 高等小學校二箇年課程卒業者若ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者
- 第四十六條 前條第四號之ト同等ノ學力ヲ有スル者ノ學力ハ試驗ニ依リ之ヲ



檢定ス其ノ學科目左ノ如シ

國語、算術、日本歴史、地理、理科

第四十七條 學校長ハ入學志願者ノ身躰ヲ檢定シ人物ヲ考查シテ入學ヲ許否スベシ

入學志願者募集人員ニ超過スルトキハ前項ノ外左ノ學科目ニ就キ試験ヲ施シ入學者ヲ選抜スベシ

國語、算術

第四十八條 卒業者ニハ左ノ卒業證書ヲ授與ス

卒業證書

氏名

校印

生年月日

右ハ本校別科ノ課程ヲ履修シ其業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

年 月 日

富山縣立藥學專門學校長位勳爵 氏

名印

第四十九條 授業料ハ年額金拾貳圓トシ左ノ三學期ニ分納セシム

第一學期 金五圓

第二學期 金四圓

第三學期 金參圓

納付期日ハ各學期共其ノ初月十日マデトス

第五十條 休學セル者休學ノ事故止ミテ學年ノ半途ヨル出席シタルトキハ當該學期ノ授業料ハ一箇月金壹圓貳拾錢ノ割ヲ以テ其ノ月分ヨリ指定ノ期日ニ於テ一時ニ納付セシム

第五十一條 本則第八條乃至第十三條第十五條第一號第三號第十八條第十九條乃至第三十二條第三十四條第三十七條乃至第四十條ハ別科ニ適用ス

第十二章 附 則

本規程ハ明治四十三年四月一日ヨリ施行ス

富山縣立藥業學校本科ニ在學セシ生徒ハ別科相當學年ニ編入スルコトヲ得(書式第一號)

入 學 願



氏名

生年月日

一 學業經歷

二 戶主ノ職業

三 賞 罰

四 徵兵關係

右入學志願致候御許可ノ上ハ御校則ヲ遵守スベキハ勿論濫ニ退學轉學致間敷候此段相願候也

住所

年 月 日

右 氏

名 印

右ノ者入學御許可ノ上ハ在學中ニ係ル事件ハ一切引受可申候也

住 所(本人下同籍ニアルモノハ記入ニ及ハズ)

職 業(同 上)

正保證人 氏

名 印

富山縣立藥學專門學校長宛

(書式第二號)

保 證 書

右ノ者在學中ニ係ル事件ハ一切引受可申候也

年 月 日

住 所

職 業

副保證人 氏

名 印

富山縣立藥學專門學校長宛



○第二編 細 則

富山縣立藥學專門學校細則 (明治四十四年九月一日)

第一章 校務分掌

第二章 生徒心得

第三章 試 驗

第四章 職員會議

第五章 當 直

第六章 門衛喇叭手心得

第七章 小使勤務心得

第八章 幹 生

第九章 寄宿舎

第一章 校務分掌

第一條 校務ノ進捗ヲ圖ルガ爲、教務課及ビ庶務課ヲ置キ、各分掌ノ事務ヲ行ハシム

第二條 各課ニ主幹一名ヲ置ク、主幹ハ職員中ヨリ校長之ヲ命ス

第三條 主幹ハ校長ノ命ヲ承ケ、教務主幹ニ在リテハ教授、訓練等ニ關スル事務ヲ、庶務主幹ニ在リテハ教務ニ屬セザル諸般ノ事務ヲ處理ス

教 務 課

第四條 教務課ヲ分テ教務係(學級主任ハ教務係ニ屬シ、當該學級ニ關スル教務事項ヲ處理ス)、監督係、圖書係トス、其分掌事務左ノ如シ

教 務 係

- 一 學科、課程、授業方法及ビ授業時間ニ關スルコト
- 二 教科書及ビ參考書等ニ關スルコト
- 三 學級ノ編成及ビ學籍ニ關スルコト
- 四 訓練上必要ナル保護、獎勵、禁制、訓戒及ビ賞罰ニ關スルコト
- 五 講堂、教室及ビ教授上ニ要スル機械、器具、消耗品ノ整理取締ニ關スルコト
- 六 教務ニ屬スル文書、物品ノ整理保存ニ關スルコト
- 七 教務上ノ文書ノ起案、統計報告ノ作製並ニ日誌記注等ニ關スルコト
- 八 入學試驗、退學、轉學、休學等ニ關スルコト



- 九 試験及び成績ニ關スルコト
- 十 生徒ノ性情、勤惰、操行等ノ觀察並ニ幹生ニ關スルコト
- 十一 家庭ニ關スルコト
- 十二 教室衛生ニ關スルコト
- 十三 遠足、修學旅行及ビ式典等ニ關スルコト
- 十四 其他教務上ニ關スルコト

監督係

- 一 校規ノ實行、督勵並ニ生徒取締ニ關スルコト
- 二 生徒ノ勤惰、操行、遲刻、缺課、早退及ビ願届書ニ關スルコト
- 三 其他教務係ノ事務中、生徒監督ノ分掌事項ニ關スルコト

圖書係

- 一 圖書ノ整理、保管、出納、閱覽ニ關スルコト
- 二 圖書印ノ保管及ビ圖書目録ニ關スルコト
- 三 其他圖書ニ關スルコト

庶務課

第五條 庶務課ヲ分テ庶務係及ビ會計係トス

庶務係

- 一 公文書ノ取扱、其起案及ビ保管ニ關スルコト
- 二 記録、編纂、統計、報告及ビ日誌ニ關スルコト
- 三 規則、命令等ノ取扱及ビ其傳達ニ關スルコト
- 四 法令、諸規則、其他緊要書類ノ整理、保管ニ關スルコト
- 五 職員ノ名簿、履歷書、進退及ビ服務ニ關スルコト
- 六 校印及ビ各室鎖鑰ノ管理ニ關スルコト
- 七 職員會議ニ關スルコト
- 八 校内ノ衛生、警備、其他一切ノ取締ニ關スルコト
- 九 物件ノ整理、保管及ビ取締ニ關スルコト
- 十 小使、門衛、喇叭手ノ勤務、進退、監督及ビ賞罰ニ關スルコト
- 十一 生徒ノ募集、入學、賞狀及ビ卒業證書等ニ關スルコト
- 十二 諸願届及ビ生徒ノ學籍、徴兵ニ關スルコト
- 十三 舉式、當直及ビ郵便物等ニ關スルコト



十四 其他他課ノ分掌ニ屬セザル一切ノ事項ニ關スルコト  
會計係

- 一 豫算ノ編成及ビ決算ニ關スルコト
- 二 物品ノ購入及ビ拂下ニ關スルコト
- 三 金銭、物品ノ出納ニ關スルコト
- 四 縣有財産ノ保管及ビ修理ニ關スルコト
- 五 授業料及ビ入學手数料ニ關スルコト
- 六 經費ニ關スル合達書類及ビ諸帳簿ノ整理保管ニ關スルコト
- 七 圖書、機械器具、標本等ノ整理保管ニ關スルコト
- 八 其他會計ニ屬スル一切ノ事項ニ關スルコト

第二章 生徒心得

要綱

- 第六條 本校生徒ハ教育勅語ノ御趣旨ヲ服膺シ、常ニ左ノ五綱ヲ格守スベシ
  - 一 徳性ヲ養ビ、知識ヲ磨キ、身體ヲ健康ニ保チ、立身報國ノ基ヲ建ツヘキコト
  - 二 科學ノ眞理ヲ攻究シテ、利用厚生ノ資ニ供シ、學術ノ精華ヲ發揮スルニ努

ムベキコト

三 志操ヲ固クシ、安佚奢侈ヲ避ケ、質素勤勉ノ習慣ヲ作り、言行一致ヲ期スベキコト

四 信義禮讓ヲ守リ、廉耻ヲ重ンジ、浮薄暴慢ヲ戒メ、公德心ヲ養フベキコト

五 校規ヲ遵守シ、師長ヲ尊敬シ、學友互ニ親睦ヲ厚フスベキコト  
敬禮

第七條 敬禮ハ衷心恭敬ノ意ヲ表スルヲ主眼トス、其法、姿勢ヲ正シ、右手ヲ以テ帽ノ前庇ヲ摘ミテ脱帽シ、垂直ニ提ゲテ其内部ヲ右股ニ對セシメ、受禮者ニ注目シ、躰ノ上部ヲ稍々前方ニ傾クルモノトス

第八條 師長ニ對シテハ必ず敬禮ヲ行フベシ、生徒各自ハ學級ノ上下ヲ問ハズ互ニ敬禮ヲ交換スベシ

第九條 師長教室ニ入り來タルトキハ幹生ノ號令ニテ一齊ニ起立シ、姿勢ヲ正シテ敬禮シ、師長ノ答禮アルヲ待ツテ着席スベシ、師長退室ノトキモ亦之ニ準ズ

第十條 授業中ハ參觀人アルトモ特別ノ命令アルニアラザレハ敬禮ヲ行フヲ



要セズ敬禮ヲ爲スベキ場合ニハ教師ノ指圖ニヨリ一齊ニ之ヲ爲スベシ  
 第十一條 師長ヨリ申渡ヲ聞カントスルトキ若クハ師長ニ申告スル事アルト  
 キハ其席ヲ距ルコト數歩ノ所ニ停マリテ敬禮ヲ行ヒ更ニ進ミテ命ヲ聞キ若  
 クハ陳述シ後舊位ニ復シ再ビ敬禮ヲ行ヒ退出スベシ

第十二條 師長ヨリ賞狀卒業證書其他ノ物件ヲ受クルトキハ適當ノ場所ニ於  
 テ敬禮ヲ行ヒ更ニ前進シ双手ヲ以テ受領シ一應披見帽ヲ持スル場合ニハ之  
 ヲ左脇ニ挟ミ右手ヲ以テ其與フルモノヲ受ケ左手ヲ添ヘテ披見スシタル後  
 之ヲ収メ退歩シテ舊位ニ復シ再ビ敬禮ヲ行ヒ退出スベシ

服 裝

第十三條 本校生徒ハ左ノ制服ヲ着用スベシ

制 帽 製式如圖 (角形帽) (圖ヲ畧ス)

地 質 黒濃紺絨

前 章 金色如圖

眼 庇 黒 革

頤 紐 黒革幅四分 釦如圖

但シ夏季ハ帽ニ白色日覆ヲ附ス略帽トシテハ黒飾帶麥藁帽ヲ着クルコ  
 トヲ得

制 服 製式如圖 (圖ヲ畧ス)

衣 袴

地 質 黒濃紺絨若クハ「ヘル」類

夏季ハ鼠色「セル」類

釦 金色如圖

外 套 將校用外套ヲ正式トス但シ廉アル場合ノ他ハ不体裁ニ抄ラザ

ル限リ隨意ノ防寒具又ハ雨具ヲ用フルモ妨ナシ

地 質 黒濃紺絨

釦 金色如圖

靴

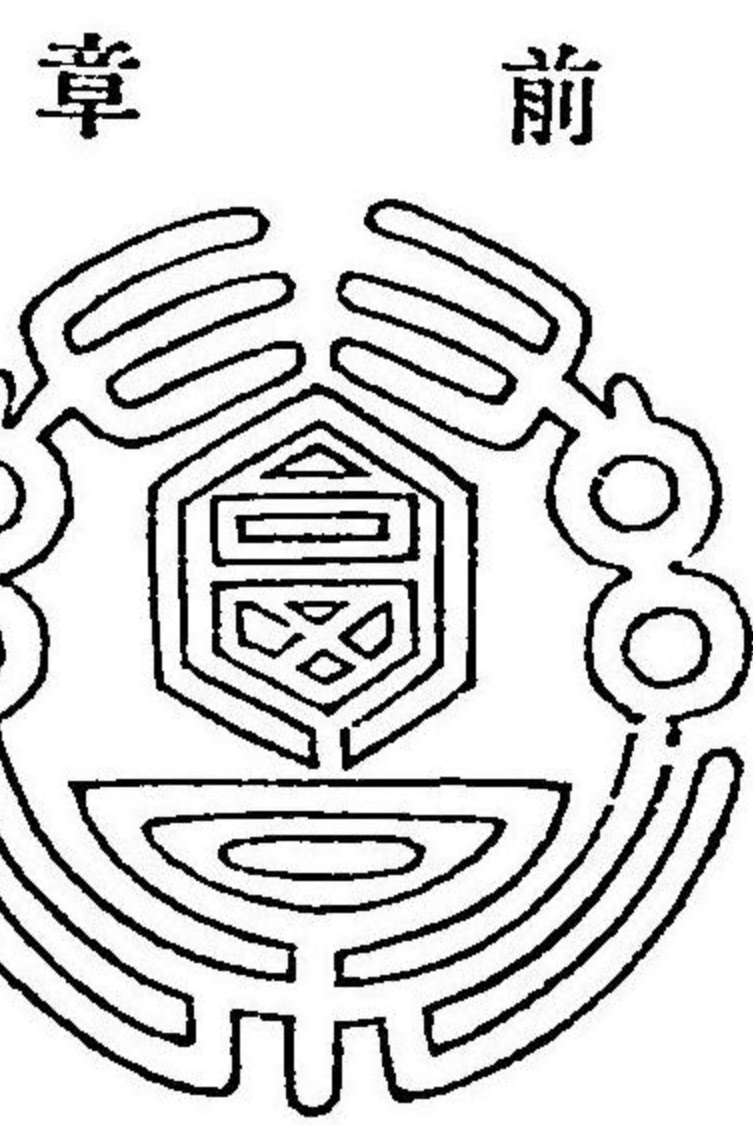
地 質 黒革短靴

上 履 實習ノ際着用スルモノニシテ制式ヲ定メス

脚 袴



地質 黒色



卸服制



第十四條 夏服着用ハ六月一日ヨリ九月三十日迄トス

第十五條 生徒室外ニ在ルトキハ必ズ着帽シ和服ヲ着スルトキハ袴及ビ制帽ヲ着用スベシ

第十六條 一時制規ノ服装ヲ爲スコト能ハザル者ハ其事由ヲ具シ保證人連署ノ上豫メ生徒監督ニ願出デ指揮ヲ受クベシ若シ正當ノ手續ヲ經ズシテ異式ノ服装ヲ爲シタル者ハ其輕重ニ應シテ操行點ヲ減ズ

願 届

第十七條 總テ願届書類ハ保證人連署ニテ校長宛トシ生徒監督ノ認印ヲ得テ之ヲ學級主任ニ差出スベシ

第十八條 病氣ニテ一週間以上引續キ缺席セントスル者ハ届書ニ醫師ノ診断書ヲ添附スベシ

第十九條 缺課遅刻早退不時出門等ノ場合ニ於テハ生徒監督ニ申出デ其許可ヲ受クベシ

第二十條 缺席缺課遅刻早退ノ届書ハ當日之ヲ差出スベシ但シ己ムヲ得ザル事アリテ當日其手續ヲ爲シ得ザルトキハ翌日其事由ヲ附記シテ届出ヅベシ

第二十一條 無届ニテ缺席缺課遅刻早退ヲ爲シタルモノハ事故一回毎ニ一點ヲ學年試験平均點ヨリ減點ス

第二十二條 舍生ノ缺席缺課遅刻早退等ノ届書ハ舍監ノ認印ヲ以テ保證人ノ連署ニ代フ

第二十三條 生徒及ビ正副保證人ノ身上並ニ住所等ニ異動ヲ生ジタルトキハ速ニ其旨ヲ届出ヅベシ

第二十四條 夏季休業中歸省若クハ一週間以上ノ旅行ヲ爲サントスル者ハ其事由行先立寄地往復豫定日數等ヲ記シ届出ヅベシ

第二十五條 校有物件ヲ亡失汚染若クハ毀損シタルトキハ直ニ學級主任ニ届



出テ其指揮ヲ待ツベシ

但シ隱蔽シタル者故意ニ出デタル者及ビ罪ヲ他ニ嫁セントシタル者ハ辨償ノ外ニ相當ノ罰科ヲ附加ス

授業

第二十六條 授業時限ノ始終ハ喇叭ヲ以テ報ズ

第二十七條 始業ノ號報アルトキハ生徒ハ直チニ教室ニ入り各自ノ坐席ニ着クベシ授業終ルモ教師退出セザルトキハ縦ニ席ヲ離ルベカラズ

第二十八條 質問ハ講義ノ段落ヲ俟チ教師ノ許可ヲ得テ爲スベシ教師ハ一般生徒ノ妨碍トナラザル場合ニ限り之ニ應答ス

第二十九條 生徒ハ授業開始前遅クモ十分時間以前ニ登校スベシ

集會

第三十條 學術技藝其他善良ナル目的ヲ以テ會團ヲ組織セントスルトキハ豫メ發起者ヨリ其趣旨及ビ規則ノ案ヲ具シ學級主任ヲ經テ校長ノ認可ヲ受クルモノトス

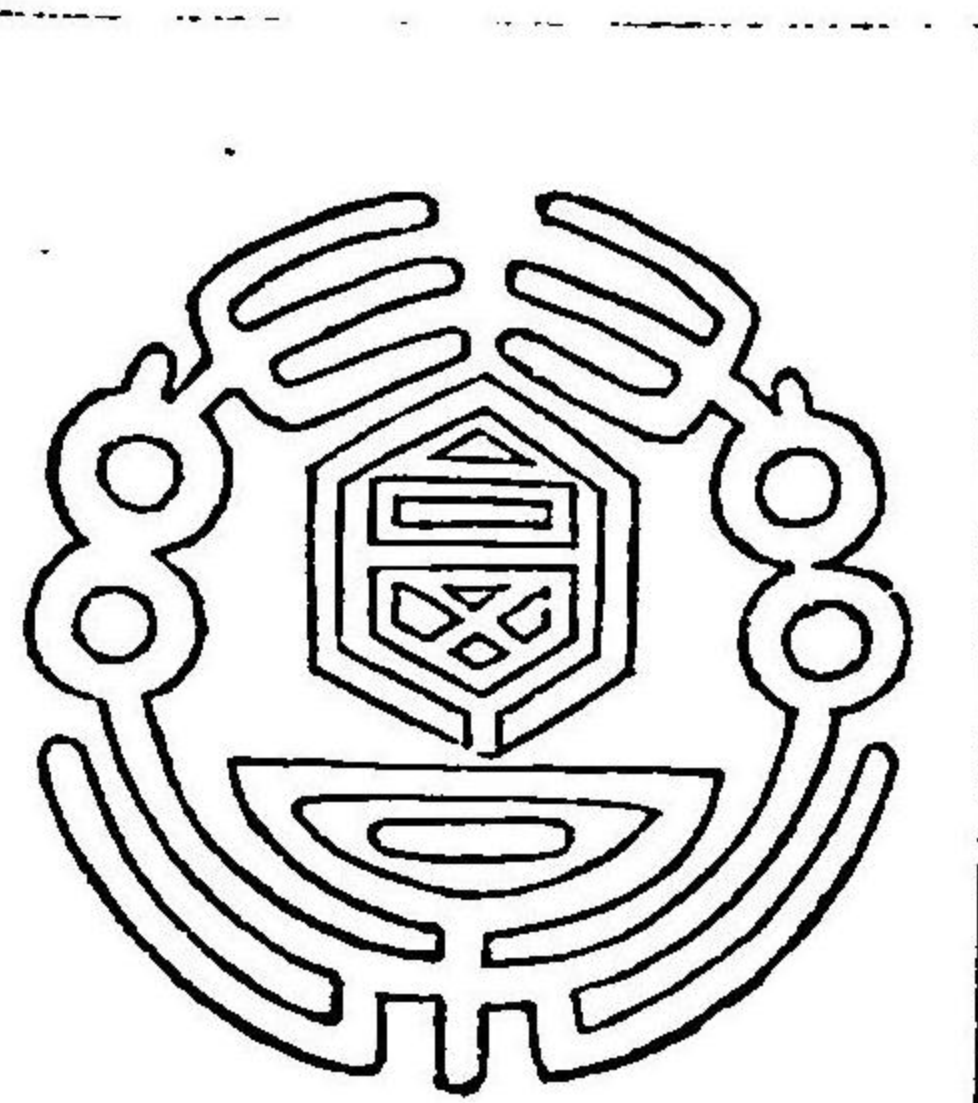
第三十一條 集會ヲ催サントスルトキハ其目的方法ヲ學級主任ニ届出デ其指

揮監督ヲ受クルモノトス

但演說討論揭示等ハ豫メ演題論旨ノ大意及ビ文案ヲ届出デ承認ヲ經ベシ  
第三十二條 集會ハ大小ヲ問ハズ校内ニ於テ行フベシ若シ已ムヲ得ザル事情アリテ之ヲ校外ニ催サントスルトキハ豫メ其事由場所時間等ヲ學級主任ニ申出デ其指揮ヲ受クベシ

宿所

第三十三條 本校規程ニ據ル自宅通學生徒及ビ校外寄宿生徒ハ門戸ノ見易キ所ニ所定ノ名札ヲ釘着スベシ  
生徒ノ宿所ニシテ不適當ナルモノアリト認メタルトキハ他ニ轉宿ヲ命ズルコトアルベシ



何

某



第三十四條 校外寄宿ノ許可ヲ受ケタル者其宿所ヲ定メタルトキハ成規ノ事項ヲ記載シ直チニ生徒監督ニ届出ヅベシ宿所ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

第三十五條 生徒監督及ビ他ノ職員ハ時々生徒ノ宿所ヲ巡視ス

第三十六條 自宅通學生ト雖モ監督上必要アルトキハ特ニ命ジテ寄宿舎ニ入ラシムルコトアルベシ

禁條

第三十七條 左記ノ行爲ハ嚴ニ之ヲ禁止ス

- 一 政治ニ關スル言論若クハ政治的意味アル席ニ臨ムコト
- 二 凡ソ社會ノ秩序風俗ヲ乱スガ如キハ勿論其虞アル圖書ヲ閱覽シ又ハ不穩ノ言行ヲナシ若クハ以上ノ嫌アル人物ト交ハリ又ハ其等ノ場所ニ立寄ルコト
- 三 飲酒ヲ爲スコト
- 四 放歌高吟等凡テ喧噪ニ涉ル行爲アルコト
- 五 金錢物品ヲ貸借スルコト
- 六 教師ノ許可ナクシテ校用ノ機械器具等ヲ使用スルコト

賞罰

第三十八條 一學年若クハ全學年中品行方正學業優等ニシテ生徒ノ模範タルベキ者ニハ其成績ヲ表彰スル爲修業若クハ卒業ノ際之ニ賞品ヲ授與ス

第三十九條 一學年間に於テ懲罰處分ヲ受ケタルモノハ此限ニアラズ

但シ同學年間に於テ懲罰處分ヲ受ケタルモノハ此限ニアラズ

第四十條 校規命令ニ違ヒ若クハ生徒ノ本分ニ背キ又ハ風儀ヲ乱シタル者ハ事實ヲ審査シ本校規程第二十八條ニ依リ左ノ各號ノ一ヲ施行ス

但シ譴責謹慎停學ニハ減點ヲ附加スルコトアルベシ

- 一 譴責ハ口頭ヲ以テ過テ責メ後來ヲ訓戒ス
- 二 謹慎ハ放課後一定ノ室ニ在リテ職員監督ノ下ニ二時間以上學科ヲ復習セシム
- 三 停學ハ一ケ年以内其修學ヲ停止ス但シ改悛ノ跡顯著ナル者ハ詮議ノ上停學期間ヲ短縮スルコトアルベシ
- 四 放校ハ學籍ヨリ除名ス但シ滿一ケ年ヲ經過シ改悛ノ跡顯著ナル者ハ詮議ノ上復校ヲ許スコトアルベシ

第三章 試驗

第四十一條 試驗ヲ分チテ學期試驗學年試驗卒業試驗ノ三トス

第四十二條 學期試驗ハ第一學期末及第二學期末ニ於テ該學期中ニ履修シタ







同	二	丁	落第 〔學年又ハ學期試驗成績〕及第
同	二	丙	落第 〔二學科共學年又ハ學期試驗成績乙以上ナルトキハ〕及第
同	二	丁	落第 〔二學科共學年成績乙以上ナルトキハ〕及第
丁以下		落第	

第四十九條 學年試驗ニ引續キ二回落第シタル者ハ本校規程第二十七條ニ依リ除名ス

第五十條 疾病ニ罹リ或ハ止ムヲ得ザル事故アリテ試驗定日ニ出席シ難キトキハ當日迄ニ其旨ヲ届出ヅベシ

但シ疾病ニ由ル者ハ主治醫ノ診斷書ヲ添附シ事故ニ由ル者ハ其事ヲ詳記スベシ

第五十一條 疾病其他正當ノ事故ニ由リ學年試驗ニ缺席シタル者ハ試驗終了後十日以内ニ其事由ヲ具シテ出願スルトキハ既往ノ成績ニ徴シ進級ノ見込アル者ニ限り追試驗ヲ行フコトアルベシ  
但シ此場合ニハ得點ノ拾分ノ八ヲ以テ其成績點トス

第五十二條 一學年ノ授業日數三分之一以上缺席セシ者ニハ學年試驗ヲ行ハス  
第五十三條 卒業試驗ニ於ケル學科ノ成績ハ平素ノ成績ヲ參照シテ定メ乙以上ヲ合格トス

第五十四條 卒業試驗ニ於テ三學科目以上丙ノ成績ヲ得タルモノハ落第トシ三學科目以内ナルトキハ三日以内ニ該學科目ノ再試験ヲ受ケシメ尙丙ノ成績ヲ得タル學科目アルトキハ落第トシ次回ノ卒業試驗期ニ於テ更ニ受験セシムルモノトス

第五十五條 卒業試験ニ際シ第五十條ノ事由アルトキハ該條ヲ適用ス

第五十六條 成績公表ハ總平均點數ノ順序ニ由ル  
但シ各學科ノ成績點數ハ之ヲ公示セズ

第四章 職員會議

第五十七條 職員會議ヲ分テ定例會議及ビ臨時會議トス

第五十八條 定例會議ハ毎月第一土曜日午後一時ヨリ開催シ臨時會議ハ校長其必要ヲ認メタルトキ之ヲ開催ス  
但シ職員ニ於テ臨時會議開催ノ必要ヲ認メタルトキハ當該主幹ヲ經テ之



ヲ校長ニ請求スベシ

第五十九條 職員會議ハ議員過半数ニ達セザレハ開催セズ

第六十條 職員會議ニ於テハ校長ヲ議長トシ職員ヲ議員トス校長不在ノトキハ次席教諭之ヲ代理ス

第六十一條 議案ハ校長之ヲ定ム職員議案ヲ提出セントスルトキハ當該主幹ヲ經テ其事由ヲ校長ニ開陳スベシ

第六十二條 職員會議ニハ議事録ヲ備ヘ決議事項及ビ議事ノ狀況ヲ記載スベシ

#### 第五章 當直

第六十三條 毎日放課後及ビ休日ニ於ケル校務ヲ處理スルガ爲宿直及ビ日直ヲ設ク宿直員及ビ日直員ニハ校長ヲ除クノ他職員中一名宛輪番ヲ以テ順次之ニ充タルモノトス

第六十四條 當直順ハ庶務課ニ於テ定メ豫メ各職員ニ通知ス

第六十五條 宿直員ノ勤務時間ハ終業時限ヨリ翌日ノ始業時限迄トシ日直員ノ勤務時間ハ始業時限ヨリ冬季ハ午後五時其他ハ午後六時迄トス

第六十六條 當直員ハ各室ノ鎖鑰當直日誌等ヲ保管シ翌朝庶務係員若クハ日直員出勤ノ上ハ勤務中ノ申繼ト共ニ之ヲ庶務係若クハ日直員ニ引繼グベシ

第六十七條 當直員ハ當直中ニ生ジタル事件ヲ漏レナク當直日誌ニ記載シ之ニ署名捺印スベシ

第六十八條 當直中ニ到達シタル電報及ビ至急親展書ハ直チニ宛名ノ者ニ送付シ學校宛ニシテ至急ヲ要スルモノハ開封ノ上適宜ニ處置シ若シ獨斷シ難キモノアルトキハ豫メ當該主幹ニ照知シタル上處置スベシ

第六十九條 當直員ニシテ當日出張賜暇忌引若クハ病氣缺勤等ノ事故ヲ生ジタルトキハ當日ノ當直ヲ免ズ但シ出張ヲ命ゼラレタル者ノ當直免除ハ出張ノ前日ニ及ブモノトス

第七十條 己人ノ便宜ニ由ル當直順序ノ變更ハ當直員相互ノ合意ヲ以テスベシ

第七十一條 新任者ハ辭令書受領ノ日ヨリ七日ノ後當直ニ加フルモノトス

第七十二條 當直中稍々重大ト認ムベキ事故發生シタルトキハ直ニ之ヲ校長(校長不在ナルトキハ庶務主幹若クハ首席教諭ニ報シ其指揮ヲ乞フベシ)



第七十三條 當直員ハ校内諸般ノ取締ニ任ジ、特ニ失火其他非常ノ事アルトキ先ヅ 御眞影ヲ奉護シ、臨機門衛、小使等ヲ指揮シテ緊要書類及ビ教授用物件ノ安全ヲ圖ルベシ

第六章 門衛喇叭手心得

第七十四條 門衛喇叭手兼務ハ出入者ノ取締及ビ信號喇叭ノ吹奏ニ任ズ

第七十五條 門衛ハ常ニ生徒通用門ニ在テ勤務ス

第七十六條 本校職員、貴賓及ビ隊列ヲ組ミタル生徒ノ出入ニ際シテハ門衛ハ衛室ニ直立シ、敬禮ヲ行フベシ

第七十七條 生徒若クハ商人等ニシテ物件ヲ携帯シテ通用門ヲ出入セントスル者アルトキハ其物件ノ何タルヲ糺シ、若シ不審ノモノアルトキハ其旨ヲ庶務係ヘ申告スベシ

但シ物品携帯出門證ヲ所持スル者ハ此限ニアラズ

第七十八條 毎日通用門ノ内外ヲ掃除スベシ

第七十九條 門衛ハ常ニ服装ヲ整ヘ、容儀ヲ正シ、苟モ不躰裁ノ態度ヲナスベカラズ

第八十條 門衛専用ノ校具ハ備品目録ニ登録シ、破損紛失セザル様保管スベシ

第八十一條 職員宛ノ信書物品等ハ直チニ庶務係若クハ當直員ニ差出スベシ

第八十二條 毎朝授業開始一時間前ニ門扉ヲ開キ、規定ノ時限ニ之ヲ閉ヅベシ

第八十三條 生徒若クハ舍生ニ面會者アルトキハ面會簿ニ其住所氏名ヲ記注スベシ

第八十四條 本校生徒ニシテ制規ノ服装ヲナサザル者ニハ出入ヲ許スベカラズ

但シ本文ニ關スル願書若クハ許可證ヲ携帯スル者ハ此限ニアラズ

第八十五條 舍生ニシテ門鑑ヲ所持セザル者若クハ各學級課業時間内ハ臨時外出證ヲ携帯セル者ノ外ハ出門ヲ許スベカラズ

第八十六條 歸舍時間ニ遅刻セル生徒アルトキハ其門鑑ヲ取纏メ舍監ニ差出スベシ

第八十七條 毎定時刻ニハ喇叭ヲ吹奏シ、若シ火災等非常ノ事變アルトキハ非常號音ヲ吹奏スベシ

第八十八條 小使勤務心得第九十條乃至第九十九條ハ之ヲ門衛喇叭手ニ準用



ス

第七章 小便勤務心得

第八十九條 小使ハ職員ノ指揮ヲ受ケ校内ノ雜役ニ服ス

第九十條 毎日始業一時間前ニ出勤シ、直チニ出勤簿ニ捺印スベシ

第九十一條 疾病又ハ事故アリテ出勤セントスル者ハ出勤時迄ニ相當ノ代人ヲ出シ其旨ヲ届出ヅベシ

第九十二條 休業日ニハ校用ニ差支ナキ限り當直以外ノ者ニ休暇ヲ與フルコトアリ又臨時校用アルトキハ退出後ト雖モ出勤ヲ命ズルコトアルベシ

第九十三條 失火、暴風、水災等非常ノ事變アルトキハ非番ノ者ト雖モ速ニ出校シ職員ノ指揮ヲ受クベシ

第九十四條 無用ノ者ヲ小使室ニ入ラシムベカラズ

第九十五條 常ニ被服ヲ清潔ニ保チ、不躰裁ノ服装ヲナサ、ル様注意シ、校外用ニハ必ず給與ノ制服ヲ着用スベシ

第九十六條 毎日一名輪番ニ宿直スベシ  
但シ休業日直ハ上番宿直小使ノ服務トス

第九十七條 當直ハ時々校舎内外ヲ巡視シ、特ニ火ノ元、戸締ニ注意シ、毎朝起床後直チニ正門ヲ開キ、定時限ニ至レハ大扉ヲ閉ヂ、午後九時ニ小扉ヲ閉ヅベシ  
第九十八條 夏季冬季ノ休業中ハ門衛小使合併シ順番ヲ以テ一名宛當直スベシ

第九十九條 祝祭日ニハ校門ニ國旗ヲ掲グベシ、校門ハ大祭日ニハ全扉ヲ開放シ、休日ニハ小扉ノミヲ開クベシ

第一百條 參觀人若クハ職員ニ面會ヲ請フ者アルトキハ其旨ヲ庶務係ニ通ジ指揮ヲ受クベシ

第八章 幹生

第一百一條 學級ノ便利ヲ圖ルガ爲各學級ニ正副二名ノ幹生ヲ置ク

第一百二條 幹生ハ當該學級生徒ノ互選ニ基ヅキ、當該學級主任及監督係協議ノ上之ヲ定メ、教務主幹之ヲ命ズ

幹生ヲ命セラレタル者ハ故ナクシテ辭任スルコトヲ得ズ

第一百三條 幹生ハ學級主任ノ指揮ヲ受ケ當該學級ニ關スル諸般ノ幹旋ヲ爲スモノトス



第一百四條 幹生ノ任期ハ一學年間トス

但シ任期中ト雖モ止ムヲ得ザル事情ヲ生ジ若クハ懲罰ヲ受ケタルトキハ  
隨時罷免スルコトアルベシ

第九章 寄宿舎

第一百五條 寄宿舎ハ主ニ通學ニ不便ナル者若クハ監督上必要アル者ノ爲ニ之  
ヲ設ク

第十六條 舎生ハ寄宿舎規程ヲ遵守スベキハ勿論起居動作都テ舎監ノ指揮監  
督ニ從フモノトス

第十七條 舎生ハ徳義ヲ重ンジ相互親睦ヲ厚フスベシ

第十八條 舎生ハ居常靜肅ヲ旨トシ室ノ内外ヲ問ハズ他人ノ妨碍トナルベキ  
行爲アルベカラズ

第十九條 寄宿舎規程若クハ命令示達ニ違背スル者ハ相當ノ罰科ニ處ス

第二十條 本規程ニ掲ゲザル事項ハ舎監會議ノ決議ヲ經テ之ヲ處理ス

但シ重要ナル事項ハ校長ノ裁決ヲ受クルモノトス

入退舎及舎生心得

第二十一條 入舎セントスル者ハ第一號書式退舎セントスル者ハ第二號書式

ニ依リ出願スベシ

第二十二條 入舎ハ學年ノ始退舎ハ學年ノ終トス

但シ缺員ノ場合ハ臨時入舎ヲ許可スルコトアルベシ

第二十三條 舎生ハ退舎時期及ビ疾病其他正當ノ事由アリト認メラレタル場  
合ノ外自己ノ便宜ニ依リテ退舎スルコトヲ許サズ

第二十四條 各室人員ノ配置ハ舎監之ヲ定ム

第二十五條 寄宿舎ハ夏季休業中ハ之ヲ閉鎖ス

第二十六條 舎費及ビ食費ハ別ニ定ムル所ニ據リ當月分ヲ毎月五日迄ニ舎監  
ニ納入スルモノトス新ニ入舎シタル者ハ日割ヲ以テ入舎許可後直チニ納入  
スベシ

第二十七條 一旦納入シタル諸費ハ第二十三條及第二百五十五條ノ場合ヲ除ク  
ノ外ハ之ヲ返付セズ

第二十八條 起床就寢食事外出面會入浴消燈等ノ時限ハ舎監之ヲ定メテ校長  
ノ認可ヲ受ク時限ハ振鈴ヲ以テ報ズ

第二十九條 起床就寢ノ際若クハ臨時ニ人員調ヲ行フ病氣其他ノ事項ニ依リ



點檢ヲ受クルコト能ハザル者ハ豫メ其事由ヲ班長ニ申出ヅベシ

第二百十條 室ノ内外ヲ問ハズ制服ヲ着セザルトキハ成ルベク着袴スベシ

第二百十一條 願屆書等ハ班長及ビ週番班長ヲ經テ舍監ニ差出スベシ時宜ニ由リ直チニ週番班長ニ差出シタルトキハ後チニ其事由ヲ班長ニ告グベシ

第二百十二條 集會若クハ揭示等ヲ爲サントスルトキハ豫メ舍監ノ許可ヲ受クベシ

第二百十三條 舍内備付物件ヲ亡失汚染若クハ毀損シタル者ハ辨償若クハ相當ノ處分ニ附ス但シ事實ノ如何ニ依リテハ室生若クハ舍生ヲシテ連帶責任ヲ負ハシムルコトアルベシ

第二百十四條 舍生ハ常ニ火氣ニ注意シ危險ノ所爲アルベカラズ

第二百十五條 非常ノ場合ニ際シテハ漫リニ動搖セズ靜カニ舍監ノ指揮ヲ俟ツベシ

第二百十六條 舍内ニ於テハ總テ舍監ノ許可ナキ物件ヲ所持スベカラズ又新聞雜誌等刊行物ヲ閱讀セント欲スル者ハ豫メ舍監ノ許可ヲ受クベシ

第二百十七條 金錢衣服ノ類ヲ貸借スベカラズ

第二百十八條 猥リニ小使室炊事場等ニ立入り若クハ私ニ小使炊夫等ヲ使役スベカラズ

第二百十九條 敬禮ハ生徒心得ニ據ルノ外總テ舍監ノ指揮ニ從フモノトス

外出及歸省

第二百三十條 外出スルトキハ制服ヲ着スベシ若シ和服ノ場合ハ必ず正帽袴ヲ着スベシ

第二百三十一條 平日ハ放課後休日ハ朝食後ヨリ歸舍門限迄隨意外出ヲ許ス

第二百三十二條 外出ノトキハ舍監室ニ掛ケアル門鑑ヲ受取り之ヲ門衛ノ札掛ニ掛ケ置キ歸舍シタルトキハ之ヲ復スベシ

但シ門鑑ノ取扱ハ必ず自身之ヲ爲スベシ

第二百三十三條 總テ舍内ヨリ物品ヲ携出セントスルモノハ必ず舍監ニ申出デ其點檢ヲ受ケ物品携帶ノ証ヲ得テ之ヲ門衛ニ差出スベシ

第二百三十四條 病氣事故ニテ缺課シ又ハ人員點檢ニ缺列シタルモノハ受診其他特別ノ場合ヲ除クノ外ハ當日外出スルヲ許サズ

第二百三十五條 父母ノ病氣等己ムヲ得ザル事故アリテ臨時ニ外出ヲ要スル者



ハ其事由ヲ舍監ニ申告シ同時ニ臨時外出札ヲ受ケ第三百三十二條ノ手續ヲ爲スベシ

第三百三十六條 舍生ハ漫リニ歸省スルコトヲ得ズ若シ所用アリテ歸省セントスルトキハ其事由ヲ記シタル父兄ノ証明書ヲ願書ニ添付シ舍監ニ差出シ許可ヲ受クベシ其ノ歸舍ノ節ハ出發日時ヲ明記シタル父兄ノ証明書ヲ持參スベシ

第三百三十七條 外出中疾病其他事故ノ爲メ歸舍時限ニ遅ル、カ若クハ不已得外泊セントスルトキハ歸舍ノ際保証人ノ証明書ヲ添へ其旨舍監ニ届出ツベシ但シ就寢時限ヲ過レハ何等ノ事情アルモ歸舍スルヲ許サズ

清潔法

第三百三十八條 常ニ身軀衣服及ビ室内ヲ清潔ニシ衣、帽、書籍、器具等ハ所定ノ場所ニ整置スベシ

第三百三十九條 起床後ハ速カニ寢具ヲ収メ、室内換氣ヲ行ヒ、洗面後室内及ビ廊下ヲ掃除スベシ

第四百十條 毎週金曜日放課後大掃除ヲ行ヒ舍監ノ檢閲ヲ受クベシ

第四百十一條 啖唾、塵埃、反古、流動物等ヲ室外ニ放棄スベカラズ

第四百十二條 襦袢其他洗濯物等ハ所定場所以外ニ於テ乾スベカラズ

役員

第四百十三條 寄宿舎ニ左ノ役員ヲ置ク

一 班長 正班長 一名 副班長 一名

班長ハ班員ノ互選ニ據リ舍監之ヲ命ズ

二 週番班長 正班長 一名 副班長 一名

週番班長ハ各班長一週間交代ニテ輪當ニ之ヲ勤ム交代期ハ毎土曜日放課後トス

三 炊事委員 八名

炊事委員ハ各正副班長ヲ以テ組織ス

第四百十四條 班長ノ任期ハ一學期間トス

補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第四百十五條 役員ハ常ニ舍生ノ模範トナリテ之ヲ誘導シ舍監ノ命ヲ受ケ誠實ニ其職務ヲ盡スベシ

第四百十六條 役員ヲ命セラレタル者ハ辭任スルコトヲ得ズ



但シ舍監ニ於テ必要ヲ認メタルトキハ其職ヲ免ズルコトアルベシ  
第四百十七條 役員會議ヲ開カントスルトキハ其事由ヲ舍監ニ申出デ監督ノ  
下ニ開催スベシ

第四百十八條 班長ハ舍監及ビ週番班長ヲ輔佐シ左ノ職務ニ服スベシ

副班長ハ班長ヲ輔佐シ班長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス

一 舍監ノ指揮ヲ受ケ班内ノ取締ニ任スルコト

二 命令示達ヲ各室ニ傳フルコト

三 班員ノ願届書ヲ審査シ認印ノ上週番班長ヲ經テ舍監ニ進達スルコト

四 常ニ班員ノ動作ヲ監視シ必要アルトキハ之ヲ舍監ニ申告スルコト

五 班内ノ秩序及ビ衛生ニ注意スルコト

六 人員調ニ際シテハ各室人員調査表ヲ製シ週番班長ヲ經テ之ヲ舍監ニ差  
出スコト

七 毎金曜日ノ大掃除後ニハ各室ノ下検査ヲ行ヒ之ヲ週番班長ニ報ジ且舍  
監ノ檢閲ニ立會フコト

八 翌日ノ喫食人員ヲ前日夕食後一時間以内ニ取調べ之ヲ週當班長ニ通報ス

スルコト

九 班内ニ急病者ヲ生ジタルトキハ直チニ舍監ニ届出ルコト

第四百十九條 週番班長ハ舍監ヲ輔佐シ左ノ職務ニ服スベシ

副班長ハ週番班長ヲ輔佐シ週番班長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

一 舍監ノ指揮ヲ受ケ舍内外ノ取締火氣及ビ衛生ニ注意シ消燈後ハ舍内  
外ヲ巡視シ巡視簿ニ巡視時刻並ニ事故ヲ記録スルコト

二 各班長ヨリ受ケタル願届書等ヲ審査シ認印ノ上舍監ニ取次キ又命令示  
達等ヲ各班長ニ傳フルコト

三 舍生ヲ代表シ若クハ特ニ命アルトキハ舍監ノ事務ノ一部ヲ代理スルコ  
ト

四 炊事委員會ニ於テ首座トナルコト

五 到來遞送物ヲ取扱フコト

六 週番日誌ニ寄宿舍ニ關スル日々ノ出來事ヲ記注スルコト

七 週番班長及ビ週番副班長ハ所定ノ腕章ヲ附ケテ勤務シ週番勤務中ハ外  
出スルコトヲ得ズ但シ止ムヲ得ザル事故アルトキハ舍監ノ許可ヲ得テ一



名限リ外出スルコトヲ得

第五十條 炊事委員ハ左ノ職務ニ服スベシ

一 週番班長ヲ首座トシ當直舍監臨席ノ下ニ翌週ノ献立表ニ就キテ食料品ノ適否及ビ分量等ヲ調査スルコト

二 炊事ニ關シテ意見アルトキハ直接賄方ニ對シテ交渉セズ先ヅ舍監ニ申出ヅルコト

食事及ビ入浴

第五十一條 食事ハ必ず食堂ニ於テ爲スベシ

第五十二條 食事ノ際ハ靜肅ニシ苟モ無作法及ビ不衛生ノ行爲アルベカラズ

第五十三條 入浴ノ際ハ喧噪ニ涉ラズ粗暴不潔ノ行爲ハ勿論他人ノ妨碍トナルベキ舉動アルベカラズ

第五十四條 浴場開閉ノ時間及ビ入浴ノ順序ハ舍監之ヲ定メ變更ノ都度之ヲ揭示ス

病室及ビ患者

第五十五條 疾病ニ罹リタル者アルトキハ醫師ノ診斷ニ依リ病室ニ入ラシ

メ又其病症ニ依リテハ一時下宿ヲ命シ療養セシム

但シ費用ハ都テ自辨トス

第五十六條 罹病者アルトキハ同室者ハ懇切ニ看護スベシ

附錄

第一號書式

入 舍 願

原籍地

現住地

第 學年

氏 名

生 年 月 日

私儀今般寄宿舎ニ入舍願出候ニ付テハ御許可ノ上ハ寄宿舎規程ヲ固ク遵守可仕候依テ保証人連署ノ上此段相願候也

年 月 日

右



右ノ者御校寄宿舎へ入舎御許可ノ上ニ在舎中ニ係ル事件ハ一切引受可申候也

氏 名 印

住所

正保証人 氏 名 印

住所

副保証人 氏 名 印

富山縣立藥學專門學校長殿

第二號書式

退 舎 願

第 號室生

第 學年 氏 名

私儀今般何々ニ依リ未巳得退舎致度ニ付保証人連署之上此段御願申上候也

年 月 日

右

氏 名 印

富山縣立藥學專門學校長殿

右 保証人 氏 名 印



○第三編 職員

校長

教諭

分拆學

化學、藥品工業學、機械學

藥用植物學、生藥學、衛生化學

助教諭

倫理學、獨逸語

礦物學、調劑學、藥化學、分拆學

囑託

體操科

書記

陸軍一等藥劑正從四位勳三等功四級藥學博士 平山增之助

陸軍一等藥劑正從四位勳三等功四級藥學博士 平山增之助

藥學士 野副豐三郎

藥學士 內藤堯實

文學士 上西半三郎

陸軍一等藥劑官正七位勳六等藥學得業士 武庫川光寧

陸軍步兵少尉正八位勳六等 三羽松太郎

舊職員

就任年月日 退職年月日

四三、四、一 三三、六、二八 (死亡)

四三、四、一 四四、六、二一

全 四四、五、四

全 四四、四、二九

全 四四、七、一五

校長 陸軍二等藥劑正正五位勳四等 中西司馬

教諭 藥學士 高島清

全 湯澤幸吉郎

全 梶原高四郎

全 今野秀轉

(兼) 陸軍一等藥劑官正七位勳六等藥學得業士 武庫川光寧

助手

石井則義

舎監

(兼) 藥劑師 田中欣輔

休職々員

藥學士 內藤堯實

藥劑師 日野五七郎



全 四三、四、二九 教授囑託 陸軍歩兵少佐從五位 末谷 三郎  
 全 四四、七、二〇 助教諭 陸軍三等藥劑官正八位勳六等 高津 武治  
 全 四四、九、二一 稻田 彖三郎

○生徒

本科第二學年(身長順)

藤山一雄	富山	南日寅	雄富山	中田八十吉	富山
後藤忠豐	富山	今任	滿福岡	萱嶋猛雄	宮崎
倉田鹿造	滋賀	田邊信太郎	富山	竹嶋清作	富山
彼谷正一	富山	吉森利悞	石川	城石秀雄	富山
光澤宗道	富山	藤井清孝	富山	今泉慶太郎	富山
佐藤與二郎	富山	梶野友秀	富山	柳瀬與右衛門	富山
沖田秀秋	鳥取	安井五郎	大阪	立石四重雄	富山
吉田清藏	富山	内山忠助	新潟	村田吉太郎	三重
小林活三	新潟	松本榮一	東京	刈賀外吉	富山

遠藤 順 埼玉

本科第一學年(身長順)

張銀海	清國	志甫德次郎	富山	野嶋俊二郎	富山
神谷三男	福井	田村義治	富山	中土庄之助	富山
久保田平	茨城	女川精太郎	富山	米田信宗	富山
森田義平	富山	大山邦憲	三重	吉野修作	富山
野嶋利久	富山	河邊友次郎	富山	阿波加茂次郎	富山
池ノ内弟二	埼玉	菅沼龍一	静岡	丸田平七	富山
鷹田與七郎	富山	河田謙治	岡山	川上守明	栃木
渡部治憲	山形	田中廉平	富山	藤田左一	富山
阿部又之助	富山	坂下保太郎	北海道	波多庄太郎	富山
竹森榮松	石川	松井金太郎	富山		

別科第三學年甲組(身長順)

富川吉次郎	富山	藤井健太郎	富山	宮田半三	富山
高藤政一	富山	櫻井善次郎	富山	吉澤初次郎	富山



鳴崎米次郎 富山 吉本要之助 富山

別科第三學年乙組 (身長順)

密田善次郎 富山 加村東三 富山 尾嶋久良 富山

摩嶋良造 富山 中谷善一郎 富山 森清太郎 石川

光岡信一郎 富山 行壽正勝 福井 高見清麿 富山

舟崎良正 富山 橋場旭志 富山 江本信正 富山

稻本讓吉 富山 淺野光重 富山 田口幸二 富山

石黒宗次郎 富山 室井小之二 富山 河邊恒二 富山

別科第二學年 (身長順)

京井重次郎 富山 直江利英 北海道 嶋倉覺了 富山

臼井秀正 富山 北村宗作 富山 阿部宇三郎 富山

竹山松之助 富山 山本源太郎 富山 羽柴悌三郎 富山

島田隆之助 富山 水野撰十郎 富山 楠正範 富山

土田哲夫 富山 堀文右衛門 富山 富樫利衛 富山

上野才次郎 富山 石割清一 富山 吉尾茂潔 富山

別科卒業生 (身長順)

田村義治 富山 中土庄之助 富山 森田義平 富山

河邊友次郎 富山 荒木文二 富山 竹嶋重作 富山

鷹田興七郎 富山 西野清太郎 富山 阿部又之助 富山

田邊精三 富山



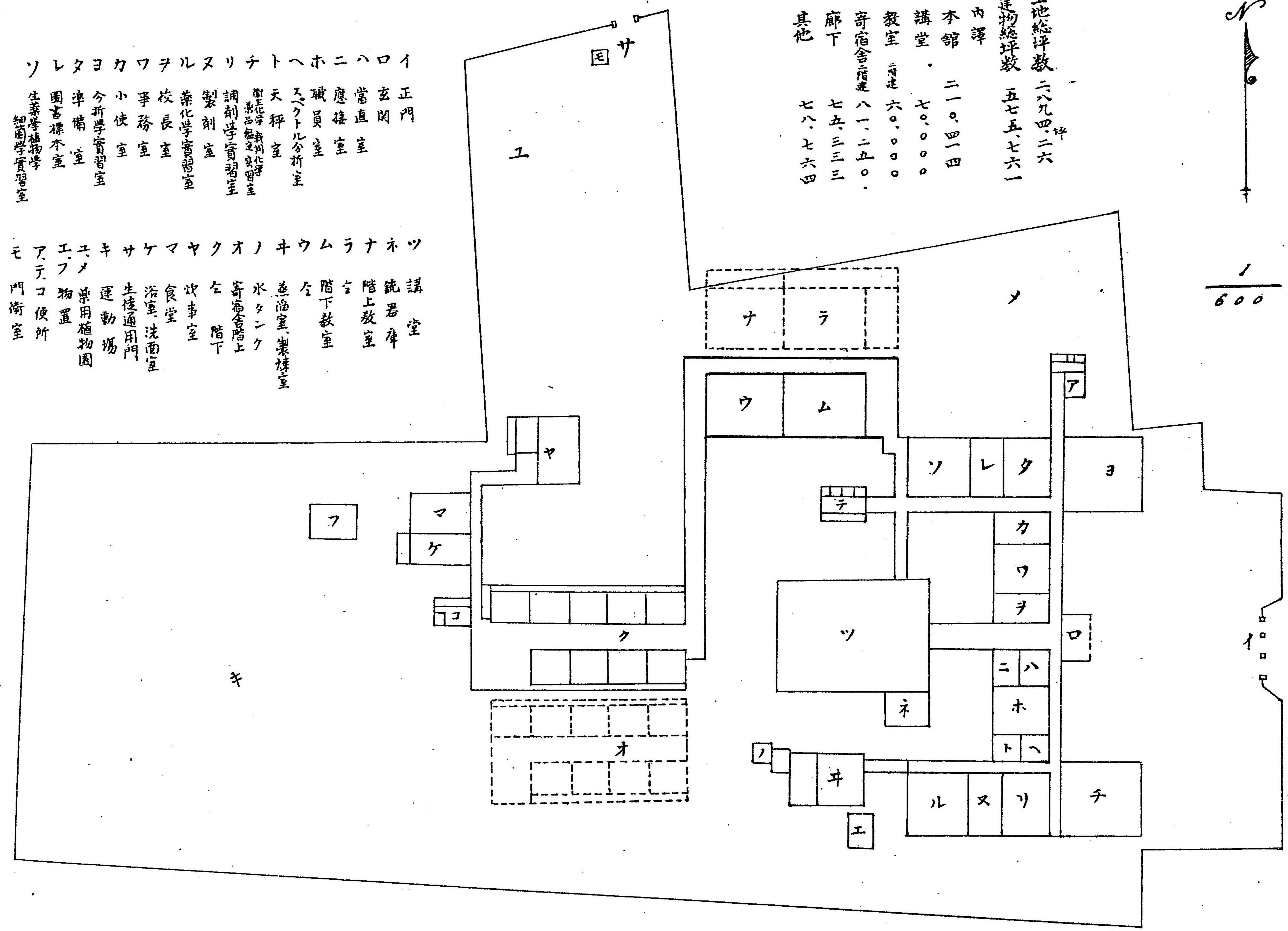






1  
500

土地総坪数 二六九四・二六  
 建物総坪数 五七五七・六一  
 内譯  
 本館 二一〇・四一四  
 講堂 七〇〇・〇〇  
 教室 三三六・〇〇〇  
 寄宿舎階上 八一・二五〇  
 廊下 七五・三三三  
 其他 七八・七六四



イ 正門  
 ロ 玄関  
 ハ 當直室  
 ニ 應接室  
 ホ 職員室  
 ヘ スケトル分析室  
 ト 天秤室  
 チ 衛生学、解剖化学、薬品鑑定実習室  
 リ 調剤学実習室  
 ヌ 製剤室  
 ル 薬化学実習室  
 ナ 校長室  
 フ 事務室  
 カ 小使室  
 ヲ 今折学実習室  
 タ 準備室  
 レ 圖書標本室  
 ソ 生薬学植物学、細菌学実習室

ツ 講堂  
 ネ 読書庫  
 ナ 階上教室  
 ヲ 階下教室  
 ム 全  
 ウ 蒸餾室、製煉室  
 キ 水タンク  
 ノ 寄宿舎階上  
 オ 階下  
 ク 炊事室  
 ヤ 食堂  
 マ 浴室、洗面室  
 ケ 生徒通用門  
 サ 運動場  
 キ 薬用植物園  
 エ 工物置  
 ア 玄関  
 モ 門衛室



# 入學志願者心得

本年四月入學セシムヘキ本科第一年級生徒約三十名ヲ募集ス入學志願者ハ左記事項ニヨリ來ル三月三十一日マテニ本校ヘ願出ツベシ

明治四十五年二月 拾六日

富山市

## 富山縣立藥學專門學校

### 一、入學志願者資格

- イ 中學校卒業者
- ロ 專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者  
但シ前二項ノ學校在學者ト雖モ當該學校長ニ於テ出願期日迄ニ卒業ノ見込アル旨ヲ證明シタル者ハ本募集ニ應ズルコトヲ得
- ハ 專門學校入學者檢定規程ニ依ル檢定合格者

### 二、入學願書ニ添附スベキ書類其他(郵便送付ハ書留トス)

- イ 當該學校長ノ卒業成績證明書若クハ專門學校入學者檢定規程ニ依ル檢定合格ノ成績證明書(成績ハ各學科目毎ニ点数ノ記入ヲ要ス)
- ロ 戶籍謄本
- ハ 入學手数料金貳圓(現金若クハ小爲替)
- ニ 寫真(半身脱帽最近撮影ノ手札形ニシテ裏面ニ氏名ヲ自書セルモノ)

### 三、體格檢査期日並ニ選抜試驗學科目

- イ 四月四日午前九時本校へ出頭
- ロ 同日體格檢査
- ハ 選抜試驗(募集人員超過ノ場合ニハ左ノ學科目ニ付キ之ヲ行フ)  
物理、化學、外國語(英獨ノ内)、數學、國語

其他ノ事項ハ學則ニテ了知スベシ

但シ學則望ミノ者ハ郵稅貳錢ヲ添へ請求スベシ

入學願書式(用紙美濃)

入 學 願

氏 名 (振り假名ヲ附スベシ)

生 年 月 日

### 一、學業經歷

### 二、戶主ノ職業

### 三、賞罰

### 四、徵兵關係

右入學志願致候御許可ノ上ハ御校則ヲ遵守スベキハ勿論ニ退學轉學等致間敷候此段相願候也

年 月 日

住 所

右 氏

名 印

右ノ者入學御許可ノ上ハ在學中ニ係ル事件ハ一切引受可申候也

住 所

職 業

正保証人 氏

名 印

富山縣立藥學專門學校校長藥學博士 平山增之助殿



267

604

明治四十四年十二月三日印刷  
明治四十四年十二月九日發行

(非賣品)

編纂 富山縣立藥學專門學校

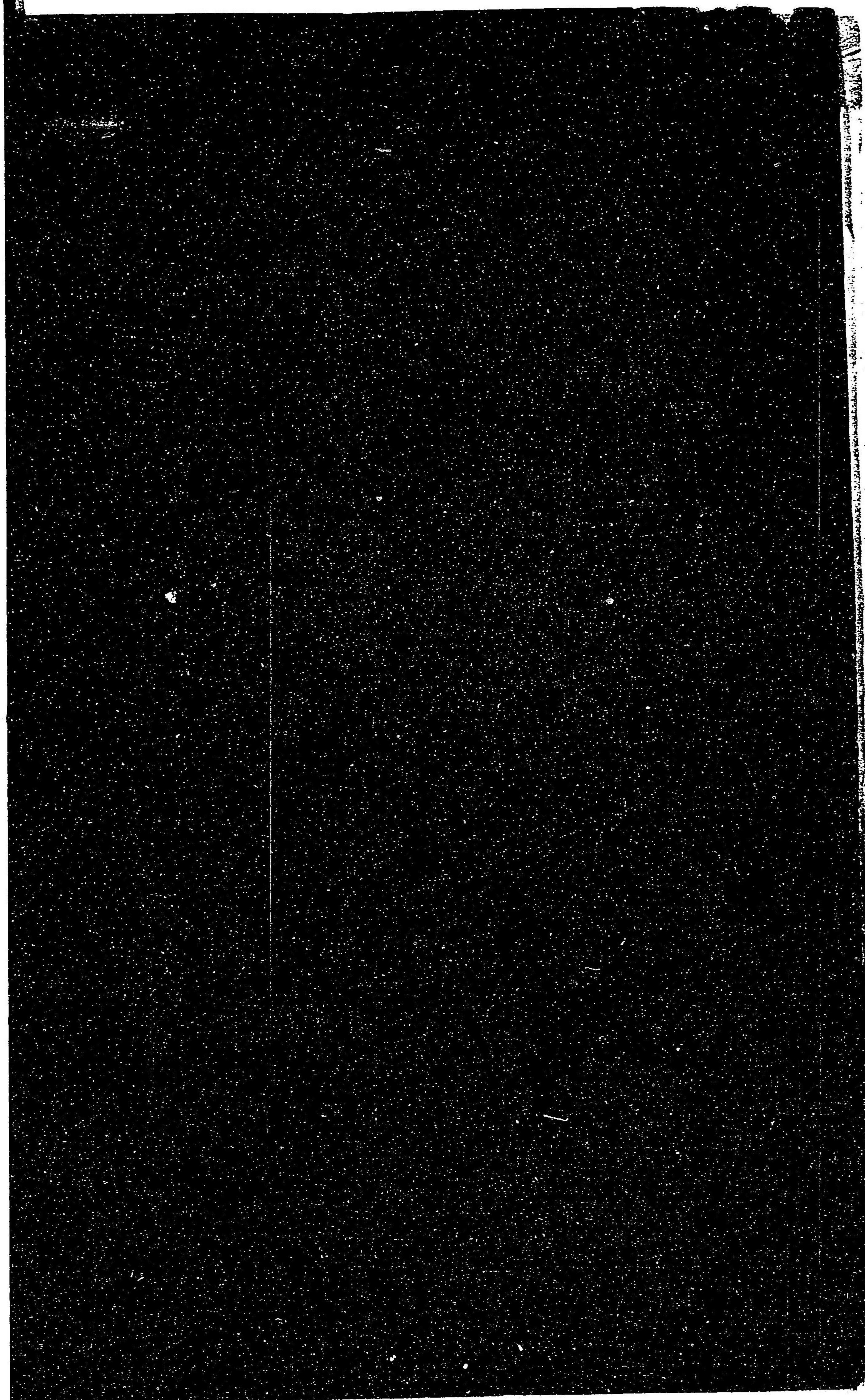
富山縣富山市千石町五拾六番地

印刷者 舟崎 幸太郎

富山縣富山市中町四番地

印刷所 若林印刷部







048927-000-9

特30-942

富山県立薬学専門学校一覽

明治四十四年十一月

富山県立薬学専門学校

M44

BEJ-0720

